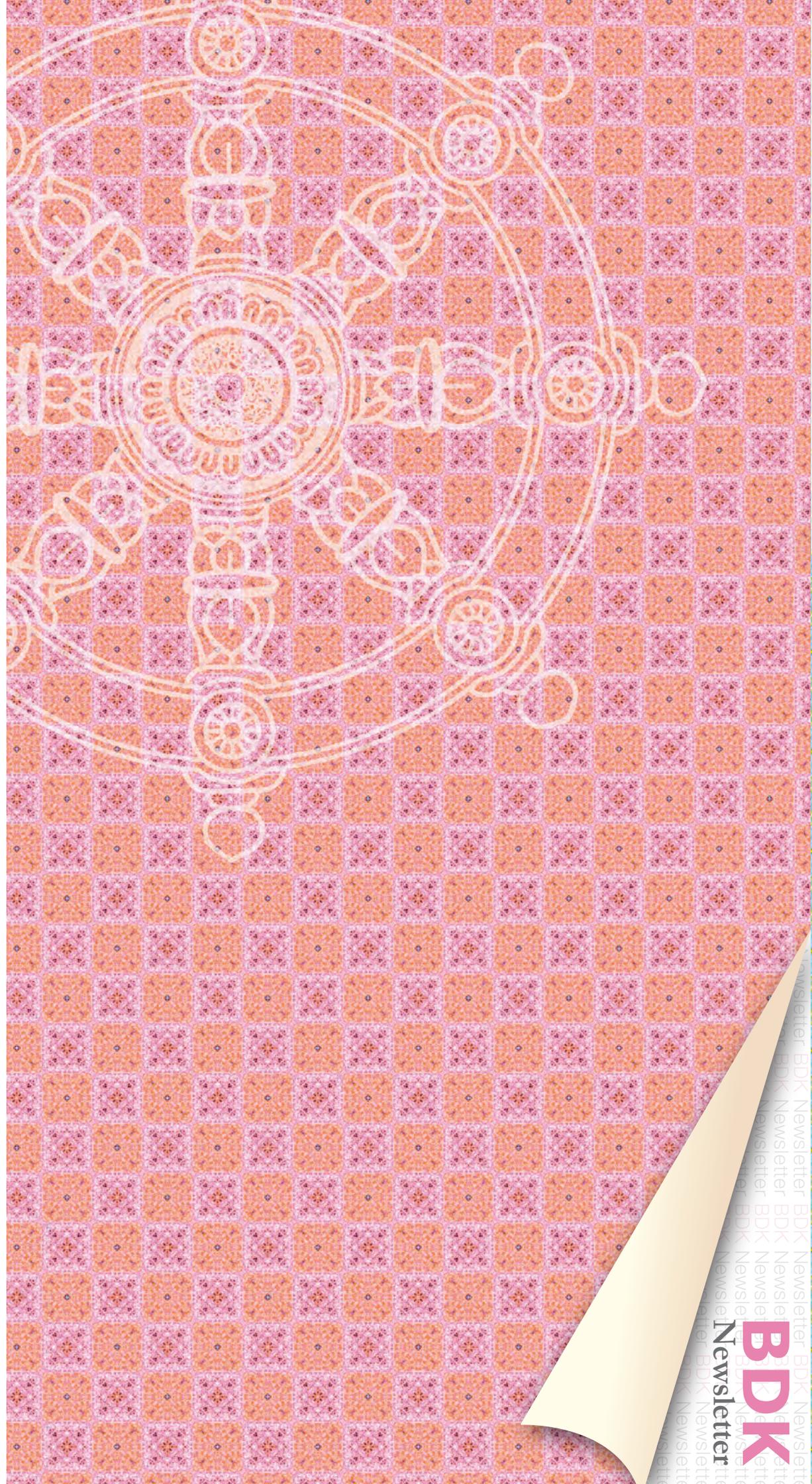


道 みち

公益財団法人 仏教伝道協会

No. 12
2023



BDK
Newsletter



公益財団法人 仏教伝道協会
会長 木村 清孝

道みち

12

CONTENTS

02 公益財団法人 仏教伝道協会 令和4 (2022) 年度の主な活動

1. 出版事業

- シリーズインタビュー「仏教聖典」を訪ねて
*「仏教聖典ボランティア」～地域と共に歩む「仏教聖典」
- 令和4 (2022) 年度 「仏教聖典」頒布状況
- 令和4 (2022) 年度 その他出版物のご紹介
*「英訳大蔵経」出版状況
- 「輝け!お寺の掲示板大賞2022」開催
- 第7回「こころの絵本大賞」受賞作品決定
- 第9回「一日一訓カレンダーフォトコンテスト」開催
*第8回「一日一訓カレンダーフォトコンテスト」入選作品写真展
- 「釈尊絵伝原画展」開催

11

2. 助成・表彰事業

- 奨学金事業報告
- 「日本人留学生奨学金」制度設立10周年記念インタビュー
*第9回「日本人留学生奨学金」受給者のご紹介
*第31回「外国人留学生奨学金」受給者のご紹介
- 第56回「仏教伝道文化賞」贈呈式 開催
- 令和4 (2022) 年度「助成金事業」報告

21

3. 啓蒙活動・支援事業・仏教講座の開催

- オンライン法話会「週刊法話ステーション」毎週ライブ配信中
- FM大阪「サタデー★ナイト仏教」好評放送中
- 令和3 (2021) 年度「沼田智秀仏教書籍優秀賞」受賞者記念講演
- 手塚治虫『ブッダ』連載50周年企画
『ブッダ～おしゃかさまの一生』紙芝居ツアー開催
- 「仏教伝道協会2022花まつり」開催
- 第50回「実践布教研究会」開催
- 「仏教聖典を経営に活かす会・生活に活かす会」年間開催報告
- 「仏教を初歩英語で学ぶ会」年間開催報告
「体験して学ぶ英語で仏教」開催
- 「仏教ヨガ講座」年間開催報告
特別坐禅会開催
- 「体感する仏教～目黒編～」開催
- 「願いの一字コンテスト2023」開催
- 「先学に聞く」公開
- 仏教初心者講座「一から学ぶ日本の仏教」年間開催報告
特別編「奈良仏教を学ぶ」開催
- 令和4 (2022) 年度「BDKシンポジウム」開催
*第28回「生死を問う」
*第29回「人は人を救えるのか 一教誨師の活動から考える」
*第30回「争わない生き方」
*第31回「仏像の美 なぜ人は祈るのか」

34

ちょっとひと休み 仏教伝道協会公式SNSリニューアル

35

海外協力機関のご紹介

- 米国仏教伝道協会 ● ハワイ仏教伝道協会 ● メキシコ仏教伝道協会
- 台湾仏教伝道協会 ● アジア仏教伝道協会 ● ヨーロッパ仏教伝道協会

44

“ささえあって” 「反省 (はんせい)」



公益財団法人 仏教伝道協会
BUKKYO DENDO KYOKAI

BDKニュースレター No.12 2023-3,000

令和5 (2023) 年6月1日発行 (毎年1回発行)

発行 公益財団法人 仏教伝道協会
〒108-0014 東京都港区芝4-3-14
電話: 03-3455-5851(代)
FAX: 03-3798-2758

編集 江口 郁 (公益財団法人 仏教伝道協会)
印刷 株式会社アーク/デザイン 田所淳一

「安寧と平和」を実感できる 社会に向かって

日頃より仏教伝道協会の事業にご理解ご協力を賜り、まことにありがとうございます。

令和4（2022）年は、新型コロナウイルスの波に揺られながらも、少しずつウィズコロナの生活が進みつつありましたが、ロシアによるウクライナ侵攻が世界に暗い影を落としました。報道される戦禍の様子、ウクライナ国民や子どもたち、そして双方の兵士たちの傷ついた姿を見るたび、とても痛々しく、深い悲しみを覚えます。

いつの時代も力と力の争いは、数多くの犠牲者と遺族を生みます。そのことを私たちは過去の経験から学んできたはずなのに、繰り返される戦争の悲惨さを目の当たりにし、仏教徒として改めて非戦を誓うとともに、一日も早く争いが収まり、平和な日常が戻ることを願わずにはおれません。

戦争をはじめ、私たち人間がその大半を引き起こしたというべき多くの重大な災害や困難が世界中に広がっていることを目にすると、き、「誰もが、どれほど小さなことでも、世のために役立つ何かを実行することが求められている」との思いが湧き上がってきます。

私たちは一丸となって、当協会の目標である社会の安寧と世界平和の実現に向け、これからの仏道の宣揚を柱とする活動を展開してまいります。

合掌



「仏教聖典」を訪ねて

「仏教聖典ボランティア」

～地域と共に歩む「仏教聖典」

◎取材協力：吉田大裕氏（真言宗御室派大聖院副住職）

◎取材場所：大聖院（広島県廿日市市宮島町）

◎聞き手：増田将之（公益財団法人仏教伝道協会）

◎編集・撮影：江口郁（公益財団法人仏教伝道協会）



仏教伝道協会では、主軸事業のひとつである「仏教聖典」の頒布活動を継続的に行ってまいりました。近年はホテル・旅館などの宿泊施設に加えて、寺院、医療施設、教育機関でも使用されるなど、様々な活用がなされています。引き続き新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響を受けた1年でしたが、そのような状況下でも「仏教聖典」を少しでも多くの方と共有すべく、当協会ではそれぞれの地域で「仏教聖典ボランティア」として活動してくださる方を募集しており、令和4（2022）年現在、76名の僧侶の皆さまにご協力いただいています。

「仏教聖典ボランティア」とは、「仏教聖典」を各地の宿泊施設や観光拠点となる施設に設置していただけるよう、そしてその良さを当協会に代わってPRし、仏教思想や文化をひろめてくださる僧侶の皆さまです。今回は「仏教聖典ボランティア」として、一人でも多くの皆さまへ「仏教聖典」を届ける活動をお手伝いいただいている吉田大裕氏（真言宗御室派大聖院副住職）に実際にどのような活動をされているのか、またどのような思いで参加して下さっているのか、お話を伺いました。

増田（以下、増）…いつもご協力いただきありがとうございます。まずは読者の皆さまに向けて、ご自身やご自坊について簡単に紹介いただけますでしょうか。

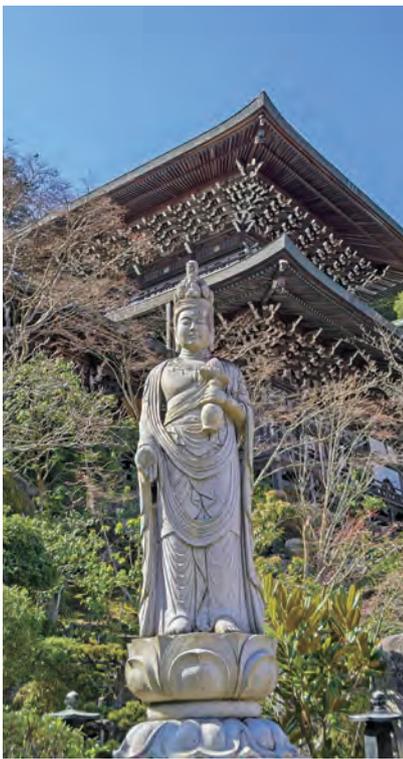
宗の最も厳しい修行のひとつともいわれる虚空蔵求聞持法（こくうそうごもんじほう）を満行された際にその成就に感謝し、護摩を焚かれたそうで、その火が今日まで「消えずの霊火」として受け継がれています。また、広島市の平和記念公園の「平和の灯」の元火の一つとしても知られています。修験道と併せ、宮島は一大信仰の場であり、当院も厳島信仰の一端を担ってまいりました。当時は厳島神社の別当寺として塔頭が12

吉田（以下、吉）…こちらこそいつもありがとうございます。自坊である大聖院は、真言宗を開かれた弘法大師空海が806年に開基したことが始まりとなっています。空海さんが、この弥山（みせん）に登られ真言

く20カ寺あり、その総本坊として大聖院の住職が座主として祭祀事を担っておりました。ご本尊は明治期に嚴島神社より移された十一面観世音菩薩で、現在は観音堂に安置されています。そして宮島といえ、世界遺産に登録されていることをご存じの方も多いかもしれません。海上社殿・鳥居が有名ではありませんが、神仏習合と弥山の原始林なども併せて、信仰・祈りの場であるということが評価されたとも聞いています。

増 なるほど。神仏習合、自然の力を借りながら皆さんで助け合い、この地を守ってきた歴史が伺えますね。

吉 現代では、「パワースポット」などと言つてくださる方も



多いのですが、歴史的にも様ざまな方が訪れていることが挙げられます。最も縁が深いのが888年創建の仁和寺です。第20代目のご門跡が応仁の乱で京都が焼け野原になった時に九州へ浄財集めに行かれた際に宮島にも立ち寄られ、その後約10年にもわたり大聖院にご留止されました。その他にも平清盛公、豊臣秀吉公、足利家との関係なども挙げるときりがないほどですが、まさに神仏習合の地として今日まで続いています。そして明治天皇も行幸の際の行在所として当院に滞在されたことがあり、その御尊影と行幸次第が今でも観音堂に掲げられています。更に伊藤博文公にも厚く信仰していただいていたため、私財を投じて参道を修復してくださるなど、本当に空海さんの

お蔭ですべてが今に繋がっている。生誕1250年を迎える今年、まさにそう実感しています。

増 ありがとうございます。素晴らしいですね。今のお話だけでも、いかにこの地が自然と人びとを引きつけてきたのか、信仰の力が宿っているのかを感じます。ですが、この数年、新型コロナウイルス感染拡大の影響で世の中が止まってしまつたので、宮島の皆さんも大変な思いをされたのではないのでしょうか。

吉 そうですね。コロナですっかり元気がなくなつていた宿泊業を中心に大変な数年でしたが、これを機にまた皆で心をひとつにして元気に頑張つていこうという気持ちも強くなりました。そういう想いを各所でお伝えすると皆さん何かしら助けてくださる。例えば、自動車メーカーのマツダさんに想いを伝えたいところ、物づくりで応援したいと申し出てくださつて、当院の「消えずの霊火」を支える燈火台を制作してくださいます。コロナ禍ですっかり世間にもお馴染みとなつた「三密」



という言葉ですが、真言宗にも空海さんが弘めた「三密行（身／しん・口／く・意／い）」という密教の教えがあります。コロナが収束を迎えつつある現在だからこそ、それらを弘めていきたいと思つています。身密（しんみつ）とは、身体・行動

のことです。自分の行動を見直し、大事なものを見極める。自分勝手な行動はしない。例えば、自分さえよければそれでいいという気持ちで行動しないなど。口密（くみつ）とは、言葉・発言のことです。自分の言動を見直し、正す。例えば、自分のことを棚に上げて、人の悪口ばかりを言つたり、インターネット上に書き込まない、人の揚げ足をとらないなど。意密（いみつ）とは、こころ・考え

についての教えです。自分のこころをありのままに見て、自分に気づくこと。例えば、様々な情報をむさぼり、こころ惑わされないことなどです。これらを日頃から実践し、私たちも仏様のような人であり続けることが大切だと思います。

増 ありがとうございます。まさに今その教えが必要とされる時ですね。しかしながら、世の中全体が大変な時期に、なぜ「仏教聖典ボランティア」の活動に参加してくださったのですか？

吉 「三密の心を実践している」ということでしょうか（笑）。良い活動に対しては、依頼があればすべて受け誠心誠意努める、依頼を絶対に断らないという師匠の教えもあり、私のモットーです。

増 そのように仰つていただき大変ありがたいことです。吉田さんと一緒に「仏教聖典ボランティア」の活動に同行させていただいた際に感じたのが、吉田さんが「いかに地域に溶け込んでいるか」です。吉田さんのお人柄も大いにあるとは思いますが

が、存在自体がすんなりと受け入れられている印象を受けました。とにかく皆さんとの距離感が近く驚きました！

吉.. 私たちのお寺には、いわゆるお檀家さんはいません。ですので、お寺と地域は持ちつ持たれつの関係性で、お互いが、宮島が良くなるために協力したりしてもらったり、私も地域の消防団などや様々な行事に貢献したいと素直に思い積極的に協力しています。地域全体が良くなるためには人も経済も良くなければならない。宮島でしたら、観光と信仰の場の両立ということになりますが、新型コロナウイルス感染拡大で宿泊業は甚大な影響を受け、経済も落ち込んでしまった。皆さんが自宅にこもる期間であった時、せめて「癒やしの場を提供したい」という思いで、広島県の観光協会さんにも助けていただき、島内の旅館さんとの共同事業で「宮島ライトアップ」事業を企画・運営したりもしました。宮島の良さを知っていただくには、まずは来てもらわないといけない。そしてフェリーを降りて当院までは島の一番奥の方まで、急な坂道を登ってお越

しいたたくしかない。来てくださった方にはそれなりの気持ちでおもてなしをしたい。来山いただき、仏教に触れてもらえるだけで有り難い、そのような気持ちで地域の文化振興のため出来る事をさせていただいてます。

増.. 吉田さんとの「対等な立場・近い距離感」があるからこそ地元の方が心を開いてくださっている、そう感じます。「仏教聖典」の良さを説明するよりも吉田さんの率直な対応が信頼を得ていますよね。「仏教聖

典ボランティア」の活動を通じて感じた事はありますか。また、この活動の良さとは？

吉.. お寺の活動自体が、今後いかに地域とコミュニケーションをとっていきけるかがポイントになってくる時代だと思えます。ですから、「仏教聖典ボランティア」の活動を通じて、コミュニケーションの練習にもなるというか(笑) 日頃からのコミュニケーションの積み重ねが、これからのお寺の在り方を再確認する良い機会になっているのだと思います。もしも受け取ってもらえない場合は、自分と相手との信頼関係がないためですから、信頼される人になれるまでということでしょうかね。

増.. 普通のことなのに、それが一番難しい！

吉.. 私の場合は有り難い事に、おすすめする相手との人間関係は既にできあがっているため「仏教聖典とは」の説明ぬきに率直にお願いをして、相手の立場に立つて断る選択肢もしっかりと与えた上で良さを伝える、これにつきます。「単純に良い

ものだからぜひ読んでもらいたい！」という気持ちです。相手が興味を示すまでは、本の中心について説明したくなるところを敢えて詳しく説明しようとはしません。手に取って自分でページをめくって読み始めていただけたところで、やっと説明する、そのような感じでした。

増.. なるほど。相手のことを先ず考えていらっしゃるからこそ、皆さん嫌な顔ひとつなさらないのですね。

吉.. いえいえ。私が未だ若いので気軽な感じで話ができるからかもしれません。自坊では修学旅行で来ることもたちにも話をする機会があります。お寺で子供たちの表情や雰囲気を見れば、自分の話を面白いと思っているのか、そうではないのか直ぐにわかるため(笑) 大人との交渉でも日頃からのコミュニケーションが活きているかもしれませんね。

増.. そんな吉田さんでも、何か活動される上で気をつけていらっしゃることはありますか？

吉.. 昨今はさまざまな宗教の問題

も世間を賑わせていますから、「仏教聖典」を手に向うと、皆さん「こんな立派な本が無料で受け取れるなんて、きつと何か裏があるに違いない」と、怪しまれることが多いのです。これは冗談ですが、仲の良い旅館関係者とのやりとりで「仏教聖典っていくらなの？」と尋ねられ、「430万円ですよ！」と言ったりして大笑いし合うことも。実際には、株式会社ミットヨという公益財団法人伝道協会さんを支援してくださっている会社組織があるからこそ「寄贈」という形で成り立っていることを説明させていただくと皆さん納得なさいます。そして決まって「この本は様々なホテルで見たことがあつたけれど、まさか無料で私の旅館にも設置してくれるなんて思ってもみなかったから」と言って喜んでくださるので、「聖典」と書いてあるので「無料で受け取ると何かあるのかも？」と思われる方もいたり(笑) とにかく、地域の方がたとの意志疎通が重要だと思います。受け取っていただけるのは、日頃からの小さなコミュニケーションの積み重ね、それだけかと。

増.. 貴重なお話を共有いただきありがとうございます。本当に



宮島島内の様子



吉田大裕

よしだ・だいゆう

真言宗御室派大聖院副住職。平成2（1990）年、宮島生まれ。平成27（2015）年に真言宗御室派総本山仁和寺の修行道場へ。平成29（2017）年に大聖院副住職を拝命し、現在に至る。仏教を通じて人びとの幸せな暮らしを願い、僧侶としての活動のほかに、宮島観光協会、子どもの教育事業「てらこや」活動、宮島大茶会実行委員、チベット、中国、タイなどの国際交流、支援事業の活動にも携わる。

そうですよ。怪しくないの
で、ぜひ気軽に手に取って
いただきたいのですが（苦笑）
最後に、今後「仏教聖典ボラン
ティア」に参加を検討してい
らっしゃる僧侶の皆さまへ一
言お願いします！

吉：日頃からのコミュニケー
ションが大事！ それに尽き
ると思います。信頼される人
になるように日頃からこちら
もそういう心持ちが重要で
すよね。先程も話しましたが
、相手の立場に立つて話を
するようにする。 「ごめん
なさい。分厚い本ですが…」
とわざと言いはじめ（笑）
。シンプルにお願いし、し
つこくしない。当然、相手
にも選択する権利があるので
無理

強い絶対しない。相手と自
分は対等な立場であることを
常に意識して上から目線で
接しないことでしょうか。で
すが、これは「仏教聖典」が
良いものであることが大前提
なのです。

増：ぜひ今後ご協力いただけ
る皆さまには、ご自身と地
域の皆さまとのコミュニケー
ションのツールとして使っ
ていただきたいですね。本日
は貴重なお話を聞かせてい
ただき本当にありがとうございました。

今回は、コロナ禍を地域の皆
さんと協力し合い乗り切っ
てきた吉田大裕氏にお話を伺
いました。やっと明るい兆し
が見えてきた今、「仏教聖
典ボランティア

※「仏教聖典」やその他出版
事業に関するお問い合わせ
は、仏教伝道協会公式サイ
トをご確認ください。
<https://www.bdk.or.jp>

ア」という存在が繋ぐ素晴らし
いご縁を再認識すると共に宿泊
施設の新たな可能性を感じ、今
何が必要なかを改めて考える
良い機会となりました。仏教伝
道協会では「仏教聖典」の他に
観光地でも人気の赤い冊子「は
じめての仏教」なども「仏教聖
典ボランティア」に参加してく
ださっているお寺には無料で提
供しています。

施設のご紹介

●宮島内で「仏教聖典」や「はじめての仏教」「ブッダのおしえ」など
当協会刊行物をご活用いただいている施設のご紹介



錦水館

宮島島内旅館「錦水館」にて
（吉田大裕氏：左、志熊聡氏：右）



宮島観光案内所

宮島観光協会案内所カウンターにて
（吉田大裕氏：左、齋藤直樹氏：右）



「ご宿泊いただくお客さまの
癒しとなれば幸いです。」
（錦水館 総支配人 志熊聡氏）

「特に日本語版、英語版が大人気です！
並べている側からどんどんなくなっていくことも。」
（宮島観光協会 広報企画課課長 齋藤直樹氏）

1 出版事業

Publication

Activity 01 「仏教聖典」頒布状況

新型コロナウイルスの影響を強く受け、令和2〜3(2020〜2021)年は国内ホテルへの頒布数の落ち込みが目立ちました。しかし、2022年は、653冊(2021年は3,813冊)を頒布し、ようやく回復の傾向がみられました。また、宿泊施設のみならず、宿泊施設のみならず、仏教系学校、保育施設等への頒布活動にもこれまでコロナの影響が強く見られましたが、2022年は25,192冊(2021年は21,782冊)を寄贈しました。最近では学校や卒業式などの行事において「仏教聖典」の配布が定着してきているようです。



海外への頒布に関しては、インドのチャットティスガル州で大規模な聖典寄贈(「仏教聖典」ヒンディー語版4,800冊、英語版5,000冊)が行われました。この寄贈は本来2020年に行われるはずでしたが、コロナの影響により2年延期され、このたびようやく実現しました。チャットティスガル州には仏教施設(ビハール・学校・病院等)が大小合わせて約2,000カ所存在します。それらの施設の一部から「仏教聖典」が欲しいとのリクエストが寄せられていたため、今回の寄贈の際には熱烈的な歓迎を受けました。今後も「仏教聖典」を届けるため、国内海外を問わず活動を続けてまいります。



インド・チャットティスガル州での「仏教聖典」寄贈

〈2022年の「仏教聖典」頒布状況〉 1月〜12月

	件数	寄贈冊数	販売冊数	
国内	ホテル(新規)	63	6,025	
	ホテル(補充)	60	3,628	
	病院(新規)	2	31	
	病院(補充)	5	166	
	学校(販売)	8		10,362
	学校(寄贈)	198	25,192	
	寺院(販売)			2,203
	寺院(寄贈)		70	
	一般他販売			371
	書店			1,478
	寄贈		1,283	
国内頒布数計		36,395	14,414	
海外	海外協力機関		37,482	
	ホテル	10	1,195	
	その他		9,835	
	海外頒布数計		48,512	
総計		84,907	14,414	

Activity 02 その他出版物のご紹介

毎年刊行している法話集『みちしるべ』の「六波羅蜜」シリーズは、初巻『布施―施しのこころ―』、第二巻『持戒―よりよく生きる―』に続き、令和4(2022)年度は『忍辱―真実を受け入れる―』を

6月に発刊しました。藤田一照氏(曹洞宗)、阿純章氏(天台宗)、前田壽雄氏(浄土真宗本願寺派)の3名に執筆いただいた本作品も、さまざまな宗派の観点から「一日一訓カレンダー」の文言をやさしく説き明か

しております。また、平成27(2015)年に発刊した『みちしるべ名講話選ちえ』『みちしるべ名講話選じひ』の続刊として、今までの『みちしるべ』から22の名講話をセレクトした『みちしるべ名講

話選えん』を2022年9月に発刊しました。

「英訳大蔵経」 出版状況

「英訳大蔵経」翻訳事業は、第一期翻訳予定139典籍の約75%を終え、2027年の翻訳終了を目指し着実に歩みを進めています。令和4(2022)年度は、禅宗六祖慧能の弟子の永嘉玄覚が、自ら得た悟り(証道)の要旨を一八一四字二四七句から



BDK「英訳大蔵経」



「忍辱 (にんにく)」



「みちしるべ名講話選 縁(えん)」

なる古い詩体によって格調高く歌いあげた『永嘉証道歌』と、日本の法相宗の僧である良遍による法相唯識学の綱要書『観心覚夢鈔』

を合冊した『永嘉証道歌・観心覚夢鈔』、そして、唐の道世が六六八年に編纂した『法苑珠林』全百巻のうち、第二八巻から第三四巻

を収録した『法苑珠林(5)』の2冊を英訳大蔵経シリーズとして刊行しました。

03 Activity

「輝け！お寺の掲示板大賞

2022」開催

第5回目となる「輝け！お寺の掲示板大賞2022」を開催しました。数多くのメディアに取り上げていただいた影響もあり、今回は過去最高の4,093作品が集まりました。

多くの作品の中で大賞に選ばれたのは龍岸寺(京都府)の「武器を捨て数珠を持つ」という作品です。

「仏説無量寿経」の中には「兵戈無用(ひょうがむよう)とあり、それは「武」のウクライナ侵攻に伴い、住職のお子さん(当時10歳)が自分の想いをイラ

ストとともに描いたもので、球の未来を担う子どもたちのためにも、「武器を捨て、数珠を持ち、拝む心(敬い感謝する心)を大切にしたい」という願いから大賞に選ばれました。

令和5(2023)年も7月1日から第6回目の「掲示板大賞」を開催する予定です。



お寺の掲示板大賞2022大賞作品

Activity **04**

第7回「こころの絵本大賞」 受賞作品決定

「読み聞かせを通じて、子どもたちに「こころ」の大切さを伝えたい」という願いのもと、第7回「こころの絵本大賞」を開催しました。

【協賛】鈴木出版(株) 後援―毎日新聞社、(公社) 日本仏教保育協会、(公財) 全国青少年教化協議会



大賞受賞者 近藤えり氏 (左) と青木常務理事 (右)



第7回大賞『なきごえがじまんのきつね』

第7回目となる令和4(2022)年度の募集には、幅広い年齢層から、計129作品の応募があり、コロナ禍であっても引き続き「こころの絵本大賞」へ高い関心が寄せられていることがうかがえます。児童文学者の西本鶏介氏、絵本作家の藤本ともひこ氏、鈴木出版編集長の波賀稔氏による厳正な審査の結果、大賞1作品、優秀賞3作品、佳作5作品が決定しました。

大賞に選ばれたのは、近藤えり氏の『なきごえがじまんのきつね』でした。釣り鐘に化したキツネを通して、自分の持ち味を知ることの大切さを描いた作品です。大賞受賞者には賞金を贈呈、受賞作品は令和5(2023)年3月に出版しました。

尚、本誌にてご紹介した書籍は全て当協会の公式サイトでのオンラインショップにてご購入いただけますので、この機会にぜひご覧ください。

第9回「一日一訓カレンダー フォトコンテスト」開催

第8回「一日一訓カレンダー フォトコンテスト」

フォトコンテスト入選作品写真展」

(於 築地本願寺・平等院・瑞巖寺)



平等院写真展 (鳳翔館)



カレンダーフォトコンテスト選考委員会



鈴木猛利氏による書道パフォーマンス (於 平等院)



渋谷画劇団による紙芝居ショー (於 平等院)

■第9回「一日一訓カレンダー フォトコンテスト」

平成26(2014)年より毎年開催している当コンテストは、今回で第9回目を迎え、応募総数738件2,497枚の作品が集まりました。

■第8回「一日一訓カレンダー フォトコンテスト写真展」

令和4(2022)年9月6日にカレンダーフォトコンテスト選考委員会を開催し、表紙を含む32枚を選定、入選者に賞状と賞金を贈呈しました。入選作品は当協会公式サイトにてご覧いただけます。

「第8回一日一訓カレンダーフォトコンテスト」の入選作品の写真展を2022年4月23日から6月12日まで築地本願寺(東京都中央区)、2022年7月1日から10月2日まで

平等院(京都府宇治市)、2022年10月7日から11月24日まで瑞巖寺(宮城県松島町)にて開催しました。

平等院の写真展では、書道家の鈴木猛利氏による書道パフォーマンスが披露され、午前の部では「慈心不殺(じしんふせつ)」、午後の部では「一味同心(いちみどうしん)」の文字を揮毫していただき、会場を大いに沸かせました。来場者数は3会場で33.8万人と、多くの方がたに写真と仏教的な金言名句に親しんでいただきました。

06
Activity

「釈尊絵伝原画展」開催
(於浄土宗大本山増上寺)



「釈尊絵伝原画展」 (於 増上寺宝物展示室前ラウンジ)



令和4 (2022) 年12月7日から令和5 (2023) 年2月20日まで、浄土宗大本山増上寺宝物展示室前のラウンジ (東京都港区) において「釈尊絵伝原画展 野生司香雪 釈尊に生涯を捧げた仏画家」を開催しました。

昭和41 (1966) 年、インドのマハーボディー寺院から増上寺に贈られた仏舎利が、令和2 (2020) 年12月、宝物展示室前ラウンジに正式に奉安されました。この仏舎利殿の案内看板が製作され、光栄なことに当協会が所蔵する『釈尊絵伝涅槃』が採用されました。これを記念して、この度『釈尊絵伝』原画7点を展示する運びとなりました。

野生司 香雪 画伯 (1885-1973) の没後50年にあたる年に、東京で絵画展を開催できたことは大変意義深いことでした。

2 助成・表彰事業

Support / Commendation

■奨学金事業報告

仏教伝道協会では、「外国人留学生奨学金」および「日本人留学生奨学金」（通称・BDK奨学金）を設置し、仏教研究を志す皆さまを支援する奨学金事業を展開しています。

「日本人留学生奨学金」は、日本から海外へ渡り、

将来の仏教學術振興に貢献しうる日本人の若手研究者を育成したいという願いから、平成24（2012）年に設立されました。令和4（2022）年で設立10周年を迎えた当事業を記念して、設立時の第1期生として採用され、現在は日本でご活躍中の井内真帆氏をお迎えし、当時は振り返ってお話を伺いました。

「BDK Fellowship 日本人留学生奨学金制度」

設立10周年記念インタビュー

当制度第1期生 井内真帆氏に聞く

未来を担う皆さまへのメッセージ

協力：井内真帆氏（京都大学白眉センター／文学研究科特定准教授）
場所：京都大学
聞き手・編集・撮影：江口郁（公益財団法人仏教伝道協会）

江口（以下、江）…本日はありがとうございます。まずはこちらの制度についてお聞きしました。それまでは仏教

「第1回 BDK Fellowship 日本人留学生奨学金」に応募された当時の経緯を教えてくださいいただけますか。

井内（以下、井）…私は応募当時、既にハーバード大学に所属していて2年目の夏だったと記憶しています。もう1年滞在して研究を続けたいと考えていた時でした。その頃、ちょうど中国で国際学会があり、その際に学会に参加されていた。

江…なるほど！ 丁度よいタイミングで「日本人留学生奨学金」制度が設立されたんですね。

井…私はチベット研究をしていますので、これまでに、チベット本土や中国の都市での長期滞在の経



井内氏：2014年ハーバード大学ジョン・ハーバード像の前にて

令和4 (2022) 年度の主な活動

験はありますが、欧米圏での長期滞在は私にとってこの時が初めてでした。ですから、留学先では思い出に残ることばかりです。研究面では、私が所属していた2011年から2014年当時は、ハーバード大学のDepartment of South Asian Studies (2011年以前はDepartment of Sanskrit and Indian Studies) には、アメリカ、インド、中国、台湾、韓国、モンゴルなど各国からチベット研究を目的とする学生や研究者が多く集まっております。とても刺激的な場所でした。週に2度ほど大学院生や私のような博士研究員向けのチベット語講読の授業に出席していましたが、古典のチベット語のテキストを英語で読む経験が少なかったのも大変でした。授業の予習をしても追いつかないということが多々あり、修士の学生時代に戻ったかのように毎回ヒヤヒヤしましたが、今ではそれも良い思い出です。

江…いつも落ち着いた印象

の井内先生でも、そのようなご経験があるのですね！では、生活面はいかがでしたか。

井…ポストンおよびポストン近郊は、亡命チベット人が多く住んでいたため、彼らとの交流を通して、チベット世界やチベット人をより深く知るきっかけになったと思います。アメリカに住むチベット人は、「亡命チベット人」とひとくちに言っても、インド生まれの人、チベットに生まれてインド経由でアメリカに辿り着いた人、チベットから直接アメリカに来た人など、チベットでの出身地も様々です。私のチベット語は最初に勉強したのがラサ方言だったので、最初はラサ方言が聞き取りやすかったですが、アメリカに住むチベット人の方言は様々まで、聞いたことがないような方言もたくさんありました。彼らと話していくうちに、ラサ方言以外の大体の方言を聞き取ることができるようになりました。本来であれば、アメリカの

江…いつも落ち着いた印象



研究室にて

しかもハーバード大学に行っていますので、英語が進歩しなければならなかったのですが、私の場合、チベット語が飛躍的に伸びた時期だったと思います(笑)。彼らとの交流は現在にまで続いていて、この

ような貴重な人間関係の構築ができたのは素晴らしい経験でした。

江…大学の授業のみならずアメリカでの生活そのものが学びの場になっていったのは素晴らしいですね。もち

ろん在学時も充実した生活を送られていたかと思いますが、奨学金受給後から現在に至るまでに、ご自身のキャリアの分岐点となった場面などはありましたか。

井…2016年にHarvard

University Pressから出版された『An Early History of Rwaseng Monastery The Rgyal ba'i dben gnas rwa sgreng gi bshad pa nyi ma'i 'od zer of 'Brom Shes rab me lce』を出版したことが私のキャリアにとって分岐点になったことは間違いありません。このチベット語のテキストは、ラディン寺（1057年建立）についての唯一の単独の寺院史で、1229年に書かれたものです。

このテキストの存在は知られていましたが、長らく入手不可能でした。平成16（2004）年にダラ

イラマ5世（1617-1682）の蔵書の中にあることが明らかとなりましたが、写本自体が利用可能となったのは平成22（2010）年になってからでした。私がハーバード大学に行ったのは平成21（2011）年でしたので、その時から指導してくださっているvan der Kuijp

先生と一緒にこのテキストを読んでいたが、校訂テキストを準備して研究を行いました。2年間で全てを終えることは難しかったですが、仏教伝道協会の奨学金制度を利用していただき、もう一年滞在を延ばすことによって完成することができました。私の分野でHarvard Oriental Seriesから著書を出すことは大変名誉なことでしたので、出版を勧めてください、サポートしてくださいとvan der Kuijp先生と貴財団に本当に感謝しております。

たかと思いますが、実際に受給されたご感想を率直に教えてくださいませんか。

井..先にも申し上げたとおり、私は既に2年間滞在していたのを奨学金制度によってもう1年延ばすことができました。特にチベット語やサンスクリット語の文献を読むことや仏教研究はそれほど早く成果が出るものではありません。私が受給させていただいた当初は、奨学金の受給期間は最長1年間でしたが、現在は3年間まで延長された聞いてとても喜んでます。

江..ご指摘の通り、現在では最短2ヶ月の短期留学から最長3年までの長期留学まで、ライフプランに合わせたさまざまな期間で受給ができるようになりました。

井..滞在期間を選べるようになったことは大変ありがたいことだと思います！私にとっては条件がぴったり合うとても素晴らしい制度でしたので、悪かった点は特になのですが、敢え

江..こちらこそありがとうございます。当奨学金制度も当時はまだ設立したばかりで心許ない面も多々あつ



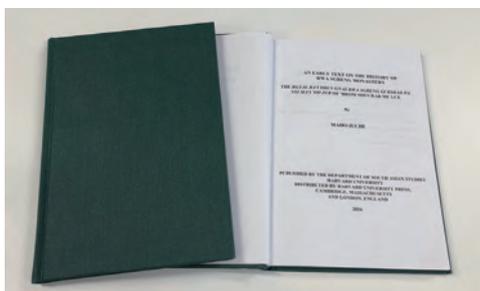
京都大学吉田キャンパス

いただけますか。

て一つだけあげさせていただと、応募条件の「年齢制限が40歳まで」になっていますが、これを「博士取得以降〇〇年以内」などに変えていただけると、もっといろいろな人に応募のチャンスが広がるのではないかと思います。

江..そうですね。今後時代のニーズに合わせた柔軟な制度にしていただければと考えておりますので、ぜひご意見をお聞かせください。では、井内先生ご自身の今後の展望についてお聞かせ

井..ありがたいことに、現在私は京都大学の白眉センターという大変恵まれた環境で研究を続けさせていただいています。ハーバード大学で行った研究の延長線上にあります。チベット文化圏の基盤解明のための総合的研究―中世チベット仏教伝播後期について―という新しいプロジェクトを令和3（2021）年から開始しています。このプロジェクトは、9世紀から13世紀までのチベット史について、2000年以降に利用可能となったチベット語の新しい文献を用いて解明していくものです。今後は、この研究を軸に進めたいと思っています。また、博士論文を含めたこれまでの研究をまとめて出版したいと考えていますし、チベット語の古典文献を翻訳してより読みやすい形にした一般向けの書籍の出版も考えています。また、令和5年度（2023年度）は、チベット語でチベット地域出



滞在中の成果をHarvard Oriental Seriesより出版

令和4 (2022) 年度の主な活動

身の大学院生向けに講義をする機会もいただいています。ここ数年は出産や育児で授業を担当していませんでしたが、やはり授業を担当すると、自分自身のこれまでの研究を振り返ることができたり、同時に新しい発見があつたりするので、とても楽しみにしています。授業の中では、私自身の研究だけでなく、日本の研究の紹介や論文の書き方の指導も行う予定です。私自身、長年「教えてもらう側・受け入れてもらう側」でしたので、今後は「伝える側・受け入れる側」になれたらと思っています。

江.. やつとパンデミックも終わりが見えましたので今後が楽しみです。

井.. はい。コロナ禍で長らくできなかったチベットでの現地調査も近いうちに再開できればと考えています。目下そちらが一番の楽しみです。

江.. では最後に、ご自身の学生時代を振り返り当時の

の自分に対してメッセージを、また将来研究者を目指す学生の皆さまにもアドバイスをお願いできますか。

井.. 自分自身には「あんなに時間がたつぷりあつたのだから、もう少しサンスクリット語や英語をちゃんとやりなさい！」とメッセージを送りたいところですが（笑）、当時の自分が「チベットに行こう！」とか「次はアメリカだ！」と思つたその直感はよかつたと感じています。もしかしたらもつといい選択肢があつたのかもしれないけれど、その時はそれしか考えられなかつたです。その時の直感が今の自分にとっても良い結果をもたらしているからです。

江.. 何事もタイミングは大切ですよ。でも願つていてもなかなか一歩踏み出せない方も多いのでは。

井.. そうですね。ですが、私自身の経験上、思い立つたその時に即行動できたこと、若いうちの経験に損は

ありません。ひとつひとつの貴重なご縁が繋がつて今の私があります。正直、研究自体は孤独な作業ですし、将来を不安に感じることも多いです。そういう感情とずっと付き合つていく必要がありますが、それ以上に楽しいことも多いです。よ。人生の時間のほとんどをかけてすることですから、それぞれの時期でその時にしかできないことを自分の直感を信じて後悔のないように進んでいただければと思います。

江.. ひとつくちに研究者といつても一般の方はなかなかイメージがわかないと思いますが、先生の言葉に励まされる方も多いのではないのでしょうか。

井.. いえいえ。仏教伝道協会の奨学金制度もありますし、海外で研究する機会があればぜひ挑戦してみたいですね。私自身はハーバード大学で知り合いになつた研究者のほとんどと今でも連絡を取り合っています。中には一生の友人に

なつた人もいます。自分のネットワークがこれほど広がることはありません。このような人との繋がりがこそ海外で研究する機会がなければ得られなかつた貴重な宝物だと感じています。

江.. 可能性は誰にでも開かれていてということですよ。ね。ぜひ留学を迷つていらっしゃる方には井内先生のお話を参考にさせていただき、留学を機に自分の人生の宝となる出会いを経験し、ご自身が伝える側の人間になつて帰つてきてもらいたいものです。ね！本日は貴重なお話をありがとうございました。



井内 真帆 (いうち・まほ)

専門はチベット史およびチベット仏教史。2008年大谷大学より博士（文学）の学位を取得。日本学術振興会特別研究員（PD）、ハーバード大学南アジア学科ポスドクフェロー、神戸市外国語大学客員研究員、青海民族大学宗喀巴研究院客座研究員、日本学術振興会特別研究員（RPD）等を経て、2021年より京都大学白眉センター・文学研究科特定准教授。

第9回

令和3(2021)年

「日本人留学生奨学金」受給者のご紹介

- 1 仏教伝道協会の奨学金制度への応募のきっかけ
- 2 受給して最も良かったと思うこと、今後の展望
- 3 海外の生活で一番気に入っているところ
(または驚いたところ)

△1年留学支援▽

◇小坂有弘(こさか・ありひろ)◇

■受給期間：2022年4月～2023年3月(12ヵ月)

■留学先・所属機関名：ドイツ・ハンブルク大学

アジア・アフリカ研究所インド学

チベットの学研究室

■指導教授名：ミヒヤエル・チンマーマン教授

■研究内容：チャンドラキールテイの二諦説解釈

公益財団法人仏教伝道協会
2024 BDK FELLOWSHIP
世界で「仏教」を学ぶあなたをサポート

本奨学金は、仏教研究に従事する日本人の若手研究者または大学院生が日本国外の大学や研究機関で仏教研究を行い、学んだ仏教の教訓をひろく世界に伝えていただきたいとの願いから仏教学術奨励を目的として設立されました。

“
let your
dreams
take flight.”

ライフプランに合わせて選べる受給期間
短期留学支援は最長 2か月-6か月
長期留学支援は最長 3年まで対応

短期留学支援 月額 30万円
長期留学支援 年額 360万円(単身) 420万円(家族帯同)

2024年度生募集中心！
詳細は[HTTPS://WWW.BDK.OR.JP](https://www.bdk.or.jp)またはこちらから
「外国人留学生奨学金」も同時募集中

奨学金制度に関するお問い合わせは 公益財団法人仏教伝道協会 BDKFELLOWSHIP@BDK.OR.JP まで

「2024 日本人留学生奨学金」PRポスター

1 BDK奨学金については、大学院に入学した当初から各所で聞いており、私のまわりにも過去に受給されている方が多かったです。博士課程修了後の進路を考えるにあたって、真つ先に浮かんできたのが、奨学金への応募でした。博士論文提出直後の研究者の行き先は必ずしも多くないため、BDK奨学金は私のような若手の研究者にとってにはなにより魅力的でした。

2 やはり最もありがたいことは、BDK奨学金のおかげで、長期間にわたって生活の心配なく、海外で研究に打ち込める機会をいただけたことです。また、当初は2021年の渡航を予定していましたが、当時は新



研究室の同僚と小坂有弘氏：中央右、Zimmermann教授：右土

型コロナウイルスの感染状況が悪かったため、次年度での渡航が可能かどうかBDKにお伺いしたところ、極めて迅速かつ柔軟に対応いただき、2022年春に無事渡航することができました。受給者が安全に研究生活を送れることを一番に考えていただいていると実感いたしました。今回の研究滞在を通じて、私の今後のキャリアを考える上で最も有益だったことは、受け入れ研究員であるMichael Zimmermann先生の後押しもあって、国際ワークショップの企画運営を一行行ったことです。結果としてBDK奨学金を通じ

て、博士研究員としてのキャリアの最初の一步を、極めて有意義な形で踏み出すことができ大変感謝しております。この経験を活かし、今後も積極的に国際的な研究活動を続けていきたいと思えます。

3 私が滞在した北ドイツのハンブルクは、アルスターという湖を中心とする歴史ある町で、騒々しくなく、かといって寂しくない、落ち着いた都会といった印象です。治安も極めて良く、大学の研究室から深夜に帰宅することもありませんが、特に危険はありませんでした。また、受け入れ先であるハンブルク大学アジ

ア・アフリカ研究所は、インド学・チベット学を合わせて、10名以上の研究員が所属しており、修士課程、博士課程を合わせて、50名以上の学生が在籍しています。私の知る限り、世界でも最大の仏教研究拠点だと思います。それぞれの出身地もヨーロッパからアジアまで多種多様で、仏教という一つの宗教を、これだけ多くの国の人びとが関心と熱意を持って研究している姿を目の当たりにし、大変刺激を受けました。海外留学を通じて知見を広めたいと考えている方にはぜひハンブルクを勧めたいと思います。

第10回 令和5 (2023) 年

「日本人留学生奨学金」受給者のご紹介

◆ 中山 慧輝 (なかやま・けいき)

■ 受給期間…3年間

■ 所属…ドイツ・ライプツィヒ大学

インド学・中央アジア学研究所

■ 研究内容…『瑜伽師地論』「撰異門分」研究

— 瑜伽行派の経句解釈 —

■ 指導予定教授…ヨーヴィタ・クラマー教授

第31回

令和3 (2021) 年 「外国人留学生奨学金」受給者のご紹介

1 仏教伝道協会の奨学金制度への応募のきっかけとして最も良かったと思うこと、今後の展望
2 日本での生活で一番気に入っているところ
3 (または驚いたところ)

◆ Iris Zhang (チエウ・アイリス)

■ 受給期間…2022年2月〜2023年3月 (12カ月)

■ 留学先・所属機関名…京都大学

■ 指導教授名…吉川真司教授

■ 研究内容…平安時代における念誦、言霊と文学文化

1 修士課程2年の時に、博士課程の先輩から仏教伝道協会 (BDK) の奨学金に

会からの奨学金を得たことがある方がたくさんいらっしゃいます。長年にわたってBDKが海外の学者を支援してきたことは存じ上げていましたので、日本での実地調査を行うため、奨学金に応募させていただきました。



研究室にて Iris Zhang氏：左、吉川真司教授：右

2 新型コロナウイルスのパンデミックにより、たくさんの方々が出ましたが、BDKの皆さんはどんな状況にも常に温かい理解を示し、柔軟な対応をしてくださりました。それら全ての支援に心から感謝しています。現在の目標は博士論文を完成させることですが、将来的には仏教研究を続け、仏教史を中心として、思



Zhang氏学部内課外研修にて

想史的、文化史的な考察を進めることを目指しています。

3 日本の多くの人びとが自然に敬意を払い、日本文化と自然の深いつながりを意識して生活していることに驚きました。特に東照宮の近くの日光杉の並木や、京都の庭園などさまざまな場所に、人と自然のつながりを強く感じ、感銘を受けました。

◇Simona Lazerini (ラッゼリーニ・シモナ)

■ 受給期間：2022年5月〜2023年4月 (12ヵ月)

■ 留学先・所属機関名：早稲田大学

■ 指導教授名：山部能宜教授

■ 研究内容：鬼形鬼子母神像

1 仏教伝道協会の奨学金は、仏教研究において最も有名な奨学金のひとつです。1年間日本に留学することができるとため応募しました。博士論文を完成させるために日本で実地調査を行う素晴らしい機会でした。私は日本で人間の髪がある鬼形鬼子母神像を研究しています。現在までに、こちらについての研究があまりなされていなかったの日本で各地で実地調査を行うことは大切な機会だと考えています。

2 仏教伝道協会 (BDK) の対応の柔軟性、親切さ、完璧な運営に大変感謝しています。新型コロナウイルスの影響で、奨学金の受給開始時期を9か月も延期しなければなりませんでしたが、BDKの皆さんは辛抱強く親切に対応してくれました。奨学金のお蔭で、北

海道から九州まで、日本全国で実地調査を行うことができましただけでなく、日本の教授や僧侶の皆さんにお会いして、世界で最も重要な仏教的な場所を訪れることもでき(例えば、東寺、延暦寺、鎌倉の大仏など)、アメリカにない資料を見つける機会も得られました。2023年の春学期に博士論文を提出する予定です。将来的には大学の教授職を得て、東アジア仏教の研究を続けたいと思っています。今後のプロジェクトで、また日本に戻ってくる事ができることを今から楽しみにしています。

3 お寺を訪れたり、日本の仏教を学んだり、日本食(特にラーメン)を食べるのが大好きです。コンビニの季節商品や揚げ物は、ほとんどすべて試しました。他にはアニメが好きなので

中野ブロードウェイや秋葉原などにも行くことができ、北海道できれいな雪も見ました。調査で訪問した九州で最高の刺身を食べ、北海道できれいな雪も見ました。調査で訪問した九州で最高の刺身を食べ、北海道できれいな雪も見ました。調査で訪問した九州で最高の刺身を食べ、北海道できれいな雪も見ました。



実地調査にて Simona Lazerini氏

第32回 令和5 (2023) 年

「外国人留学生奨学金」受給者のご紹介 (申込順)

◇高明元 (ガオ・ミンユアン)

■ 研究予定内容：「習気/熏習」の概念と「種子」との関係について

■ 所属予定機関：早稲田大学

■ 指導予定教授：山部能宜教授

◇朴熙彦 (パク・ヒーオン)

■ 研究予定内容：アティシヤの密教思想研究

■ 所属予定機関：筑波大学

■ 指導予定教授：吉水千鶴子教授

第56回「仏教伝道文化賞」贈呈式開催
於 仏教伝道センタービル 2022年10月27日



第56回「仏教伝道文化賞」受賞関係者



田中昭徳氏受賞スピーチ

令和4(2022)年10月27日仏教伝道センタービル8階にて、第56回「仏教伝道文化賞」贈呈式ならびに祝賀披露宴を執り行いました。

仏教伝道文化賞受賞者の田中昭徳氏は、仏教讃歌を数多く作曲し仏教音楽の現代化に寄与された功績が讃えられました。

スピーチでは、「好きでやめられず、細々と創作と演奏を続けてきただけで、その間にお付き合いいただ



東大寺福祉事業団へ楯の贈呈

いた皆さまのお力添えのおかげさまです。」と60年にわたる活動を振り返りました。

仏教伝道文化賞沼田奨励賞を受賞した東大寺福祉事業団は、奈良仏教と華嚴の教えを基に難病の子どもと家族の為の施設を開設し、親子の絆や縁の尊さを伝える活動を続けてこられました。福祉事業団の富和清隆理事長は「どの子どもも生まれてきてよかったです。どの親もこの子の親になれてよかったと実感できるよう、励ましの賞をいただいたことを機に、今後も使命に専念してまいりたい。」と気持ちを更新にされていた様子でした。

令和4 (2022) 年度「助成金事業」報告

仏教伝道協会では、当協会の公益事業目的に賛同し、国内外にて積極的な活動を行っている個人または団体を支援するため、活動助成金を交付しています。

令和4 (2022) 年度は、23件の団体または個人から申請があり、公正な審査の上、14件の団体または個人への助成金交付が決定しました。

今回は、これまでに交付したいくつかの事業についてご紹介させていただきます。まず、平成31 (2019) 年度、サールナート初転法輪寺 (インド) にある野生司香雪画伯の仏伝壁画の保全事業に助成金を交付しました。2022年12月16日、無事に修復が完成し、落成式典が日印合同で執り行われました。

また2022年度は、神奈川県鎌倉市で子ども向けのお寺での合宿や朗読会などの活動を行っている特定非営利活動法人鎌倉てらこや、京都府立医科大学附属病院主催の市民公開講座「がんサバイバー(患者とその家族)がより良く生きるために～仏教的視点を取り入れた生き方～」などに助成金を交付しました。

◎当協会の「助成金制度」についての詳細は、公式サイトをご確認ください。

<https://www.bdk.or.jp/bdk/jyosei/jyoseikin.html>

■ A. 沼田仏教講座新規開設及び運営維持助成金

団体名	申請事業内容
University of California, Berkeley	沼田センター設立積立金

■ B. 海外協力機関活動支援助成金

団体名	申請事業内容
BDK Asia	仏教聖典の頒布活動
BDK Taiwan	仏教伝道協会の出版物の頒布



インド・サールナート野生司香雪画伯仏伝壁画修復保全落成式典



京都府立医科大学附属病院主催 がん市民公開講座「がんになっても自分らしく生きる」

公益財団法人 仏教伝道協会

令和4(2022)年度の主な活動

■ C. 団体支援助成金

団体名	申請事業内容
日本印度学仏教学会	情報化対応を介した国際的学術交流及び文化貢献の促進事業
特定非営利活動法人鎌倉てらこや	鎌倉てらこやー大学・寺社・行政・市民ボランティアの協働による地域コミュニティ再興事業ー
フリースタイルな僧侶たち	フリースタイルな僧侶たち フリーペーパーの発行、WEB、イベント開催事業
公益財団法人中村元東方研究所	公益財団法人として研究調査事業・研究助成事業・顕彰事業・普及事業

■ D. 事業支援助成金 - D-1. 仏教精神・文化普及活動及び人道支援活動

団体名	申請事業内容
公益財団法人全国教誨師連盟	教誨師研修事業
第46回全日本仏教徒会議 山梨・身延山実行委員会	第46回全日本仏教徒会議 山梨・身延山大会
京都府立医科大学附属病院	市民公開講座「がんサバイバー（患者とその家族）がより良く生きるために～仏教的視点を取り入れた生き方～」
全日本仏教青年会	全日本仏教青年会全国大会・WFBY50周年記念法要
全日本仏教青年会	仏法興隆花まつり千僧法要

■ D. 事業支援助成金 - D-2. 仏教学術振興活動

団体名	申請事業内容
龍谷大学 龍谷ミュージアム	2022年度 春季特別展「ブツダのお弟子さんー教えをつなぐ物語ー」
DH(デジタル・ヒューマニティーズ 国際会議)2022実行委員会	デジタル・ヒューマニティーズ国際会議2022



特定非営利活動法人鎌倉てらこや“みんなで朗読”朗読体験の特別ゲストとして紙芝居『ブツダ』を上演

3 啓蒙活動・支援事業・仏教講座の開催

Enlightenment / Support / Buddhism course

Activity 01 「週刊法話ステーション」 オンライン法話会

毎週ライブ配信中

ただいています。敷居が高いイメージの「法話」をより多くの方へ、もつと仏教を身近に感じてもらえるよう2023年度も引き続き配信します。

が興味深く途中から視聴しました。今後の回もなるべく視聴したいと思えます。」「週刊法話ステーションのご法話の時間は、いつもゆつたりと流れて、気持ちが落ち着きます。」など、励みになる感想をい

話を1週間にお一人、様ざまな宗派の僧侶の皆さまにお話しいただいています。

令和3（2021）年1月からスタートしたオンライン法話会「週刊法話ステーション」。毎月テーマを設定し、それに沿った法話を1週間にお一人、様ざまな宗派の僧侶の皆さまにお話しいただいています。



2022年5月 遠田旭有師



2022年8月 清水良将師

令和5（2023）年2月には通算100回目の放送を越え、水曜日の夕方この時間を楽しみにしてくださる方も増えました。また、法話は順次当協会の公式YouTubeチャンネルで公開しており、多くの方からアクセスしていただいています。講師の方がたも毎回創意工夫をこらしてお話をしてくださっています。

視聴者からは、「わかりやすく親しみをもって聞けました。飾らない修行のリアル、良かったです。煩惱との葛藤、説得力がありました。」「今回のテーマ

2022年度月間テーマ・出演講師（敬称略）

4月 「嘘」	中村 建岳	10月 「健康」	西條 瑠真
	谷 晃仁		近藤 徳道
	若林 唯人		田中 密敬
	倉松 宗道		上田 昭憲
5月 「食」	西田 稔光	11月 「自然」	村上 定運
	荻 隆宣		久住 謙昭
	河口 智賢		高橋 了
	遠田 旭有		深澤 亮道
6月 「環境」	高橋 玄峰	12月 「孤独」	南條 了瑛
	本多 真成		吉田 尚英
	池上 良慶		河合 宗徹
	桐生 俊雅		佐藤 直実
7月 「恐怖」	伊藤 竜信	1月 「未来」	塚田 博教
	須藤 光昭		善慧 與一
	田坂亜紀子		中島 至
	本多 清寛		本良 敬典
8月 「平和」	織田 宗泰	2月 「コミュニケーション」	山下 千朝
	桜庭 尚吾		小杉 瑞穂
	千田 明寛		高島 幸博
	清水 良将		河野 裕韶
9月 「宇宙」	吉井 直道	3月 「修行」	松村 妙仁
	互井 観章		鈴木 泰祥
	小野 常寛		長岡 俊成
	田中 宣照		

Activity 02 FM大阪
「サタデー★ナイト仏教」 好評放送中

平成30(2018)年6月からFM大阪にて放送を開始したラジオ番組「仏教伝道協会 Presents 笑い飯 哲夫のサタデー★ナイト仏教」はおかげさまで、令和4(2022)年に5年目・シーズン5に突入しました。



哲夫氏(左)、尾崎世界観氏(右)

毎週土曜日深夜24時15分からの15分番組を継続、月替わりで著名人、僧侶をお招きし、バラエティーに富んだお話しでリスナーの皆さまに仏教をより身近に感じてもらえるよう放送しています。

特にシーズン5では、人気バンド・クリップハイプのヴォーカルで、小説家としてもご活躍されている尾崎世界観氏や、講談師の神田伯山氏など、各業界から幅広く多彩なゲストにご出演いただきました。また僧侶出演月の「フリースタイル説法」も好評。リスナーからは「日々の暮らしに通じる仏教の話を楽しみにしている」「僧侶のお話は人生のヒントに」「仏教を身近に体感できる良質番組」など、番組制作の励みとなる温かいメッセージが多数寄せられています。

2022年度出演ゲスト (敬称略)

4月	横田南嶺 (臨濟宗円覚寺派管長)	10月	松本昭圭 (浄土真宗本願寺派光明寺僧侶)
5月	バイク川崎バイク (お笑いタレント、小説家)	11月	尾崎世界観 (ミュージシャン、小説家)
6月	ネルケ無方 (曹洞宗安泰寺前住職)	12月	千葉公慈 (曹洞宗宝林寺住職)
7月	みうらじゅん (イラストレーター等)	1月	いぶくろ聖志、神永大輔 (和楽器バンド)
8月	松山大耕 (妙心寺退蔵院副住職)	2月	阿 純章 (天台宗圓融寺住職)
9月	神田伯山 (講談師)	3月	ヨネダ2000 (お笑いコンビ)

Activity 03

令和3(2021)年度

「沼田智秀仏教書籍優秀賞」 受賞者記念講演

2021年度沼田智秀 仏教書籍優秀賞(通称・Toshi Award) 受賞作を執筆されたC.V Jones氏(ケンブリッジ大学講師)を日本にお招きし、受賞者記念講演会を開催しました。令和5(2023)

年4月に京都(龍谷大学)と東京(東京大学)で講演し、受賞作の『THE BUDDHIST SELF: ON TATHAGATAGARBHA AND ATMAN』の内容を、執筆後の研究成果を踏まえてお話いただきました。世界で活躍されている最先端の仏教学者の研究成果を日本で聴ける貴重な機会とあって、研究者を中心に多くの関心を集めました。



受賞者 C.V Jones氏



於 恵光幼稚園(栃木県)



於 築地本願寺(開法ホール・東京都)

Activity 04

手塚治虫『ブツダ』連載50周年企画 『ブツダくおしゃやかさまの一生』 紙芝居ツアー開催

2022年4月1日〜12月31日

令和4(2022)年、手塚治虫『ブツダ』連載50周年 記念イベントとして、プロの紙芝居師・声優によるパフォーマンスをお楽しみいただける「紙芝居ショー」を、東京近郊の幼稚園・保育園16施設および当協会刊行の「一日一訓カ

レンダー」写真展会場でもある築地本願寺、平等院、瑞巖寺にて開催しました。当協会刊行の紙芝居『ブツダくおしゃやかさまの一生』を、演者が身振り手振りを交えて熱演し、大いに盛り上がりました。

心に1, 571名の方がたにご観覧いただき、観覧者にはオリジナルのぬりえをプレゼントしました。

期間中、子どもたちを中



05 Activity

2022年3月25日～4月8日
「仏教伝道協会2022花まつり」開催



花まつりポスターの展示

ごあいさつ
 この度は、(公財)全日本仏教協会が2017年より続けてられた「花まつりデザイン募集」の入選作品を「仏教伝道協会 2022花まつり」として展示させていただく運びと相成りました。

全日本仏教協会では、お釈迦さまの誕生日である「花まつり」を広く社会に発信するため、入選作品をもとにポスターや絵はがきを作成しています。

ポスター・絵はがきは、毎年10万部、全国の寺院や地域で行われる花まつり行事やイベント、各教育施設などで掲示・配布されています。

今回展示されている第1回から第5回までの17点の作品は、仏教を間かされたお釈迦さまの誕生を祝うにふさわしく、色彩豊かで愛らしく、一点一点思いや願いが込められ描かれています。

どうぞゆっくりご覧いただき、心穏やかなひと時をお過ごしいただければ幸いです。

また、花まつりにあわせて(公社)全日本仏教婦人連盟より「花の種」をご提供いただきましたので、是非お持ち帰りください。

期間中は中国料理 菩提樹にて「特製 精進カレー」を提供しております。どうぞご賞味ください。

令和4年3月25日 合 掌
 公益財団法人 仏教伝道協会 理事長 辻 朝隆

主 催 公益財団法人 仏教伝道協会
 協賛 公益財団法人 全日本仏教協会
 協賛 公益財団法人 全日本仏教婦人連盟
 中国料理 菩提樹



釈尊絵伝「降誕」と花御堂

平成29(2017)年より続けられてきた公益財団法人全日本仏教協会主催の「花まつりデザイン募集」における入選作品の原画(第1回から第5回までの17点の作品)を、仏教伝道センタービル1階ロビーに展示しました。

お釈迦さまの誕生を祝う「花まつり」にふさわしく、色彩豊かで愛らしく、願いが込められ、同時に釈尊絵伝の複製画『降誕』と花御堂を展示。玄関外にも色とりどりの花

られた作品が並びました。

同時に釈尊絵伝の複製画『降誕』と花御堂を展示。



精進カレーの販売

壇を設置し、より多くの方がたに関心を持っていただくようです。

また公益社団法人全日本仏教婦人連盟からは数種類の「花の種」をご提供いただき、ご来場くださった皆さまに自由にお持ち帰りいただきました。

さらに期間中は、当ビル内レストラン「三田菩提樹」による「特製 精進カレー」(店内・弁当)を販売し、多くの方にご賞味いただきました。

06 Activity

第50回「実践布教研究会」開催 於 天台宗総本山比叡山延暦寺 2022年6月1日～3日



第50回「実践布教研究会」集合写真

50回目の節目となる「実践布教研究会」を、天台宗総本山比叡山延暦寺（滋賀県）にて開催しました。コロナ禍で2年延期となり、3年ぶりの開催となりましたが、宗派を超えて僧侶、寺族ら30名が参加し、「比叡山の仏道く回峰行に学ぶ



天台宗より開催助成金を拝受

く」をテーマに研鑽を深めました。初日の開講式では、天台座主 大樹孝啓猊下にご臨席を賜り、励ましの言葉をいただきました。2日目早朝には、根本中堂にて勤行ののち、小鴨覚俊氏の解説による諸堂拝観、宮本祖豊



回峰行体験

氏の講義を通して伝教大師最澄の心に触れました。最終日は夜中の2時から回峰行の体験。参加者は白装束に身を包み、各所で『般若心経』をお唱えしながら比叡の山道を歩き、無事に研究会を終えました。



分科会の様子

Activity 07
年間開催報告
「仏教聖典を経営に活かす会・生活に活かす会」

当協会では、事業の目的のひとつに「仏教精神とその文化興隆の為の啓蒙活動」を掲げており、各種講座を主催しています。

「仏教聖典を経営に活かす会」は、仏教精神を学び、事業経営に活かし、また人生の道標の一助となる

ように、宗派にとらわれず、仏教が持つ東洋の叡智と慈悲の精神に一人でも多くの方に触れていただくための月例講座です。令和4

(2022)年度は、前年度に引き続き一栗貞氏(大谷大学学長)、千葉公慈氏(東北福祉大学学長)の両



生活に活かす会(松本智量氏)



経営に活かす会(千葉公慈氏)

氏を招き、月1回(第4金曜日18時〜)開催。講義後は講師を囲んだ懇親会を開催し、参加者の皆さまとの交流を深めました。

同じく「仏教聖典を生活に活かす会」は、宗派にと

らわれず、仏教精神を日常生活に活かすことを目的に「仏教聖典」をテキストとしたお話と、和やかな雰囲気の中で仏のみ教えに触れられる月例講座です。2022年度は前年度に引

Activity 08
年間開催報告
「仏教を初歩英語で学ぶ会」
オンライン開催

「仏教を初歩英語で学ぶ会」は平成23(2011)年に始まり、平成28(2016)年から英語で仏教を説明できる人材育成を目的とした「仏教英語ガイドプログラム」として開講してきました。これまで3級コースは185名

(受講者数400名)、2級コースは119名(受講者数149名)が修了。修了者の中には、実際に観光寺院などで英語ガイドボランティアとして活躍されている方も多数いらっしゃいます。

講師のケネス田中氏(武蔵野大学名誉教授)とケアリー田中氏(英語発声学研究者)によるユーモア溢れるお話や、そのお人柄のおかげで長年受講者の方がたには楽しみながら仏教を英語で学んできたことが出来ました。

2022年度を以て本プログラムは終了となりますが、また新たなかたちで、英語で仏教を学ぶ機会を提供していく予定です。(最新情報は当協会公式サイトにてご確認ください)

2022年度を以て本プログラムは終了となりますが、また新たなかたちで、英語で仏教を学ぶ機会を提供していく予定です。(最新情報は当協会公式サイトにてご確認ください)

2022年度を以て本プログラムは終了となりますが、また新たなかたちで、英語で仏教を学ぶ機会を提供していく予定です。(最新情報は当協会公式サイトにてご確認ください)



仏教を初歩英語で学ぶ会2022年度修了式(オンライン)

「体験して学ぶ英語で仏教」開催 於 京都・奈良

「体験して学ぶ英語で仏教」は教室での講義とお寺での体験学習を組み合わせた仏教英語講座です。①坐禅、②寺院建築／日本庭園、③仏像の3つをテーマに3名の講師をお招きまし

た。ネルケ無方氏（安泰寺前住職）には禅の教えについての講義と興聖寺（京都府・曹洞宗）での坐禅体験、リサ・グランバック氏（龍谷大学講師）には仏と神で構成された仏教的世界

観についての講義と清水寺（京都府・北法相宗）での解説ツアー、ザイレ眺映氏（興福寺録事）には仏像についての講義と興福寺（奈良県・法相宗）での解説ツアーをご担当いただきました。知識だけでなく実際に現地へ赴き体験してみること、より深い仏教の学びと活きた英語学習が可能になったと受講者から好評をいただきました。



興福寺（ザイレ眺映氏による解説）

Activity

「仏教ヨガ講座」年間開催報告

難しいポーズも楽しみながら集中できる
高リピート率の講座へ成長

高野山真言宗の僧侶でヨガ講師のMOMO（モモ）先生を迎えて2年目の2022年度「仏教ヨガ講座」を開催しました。

ヨガの中でも比較的運動量が多いとされる「アシュタンガヨガ」の指導者であるMOMO先生のレッスンには、難易度の高いポーズがたびたび登場しますが、美しいポーズをとることがこの講座の目的ではなく、呼吸と体の動きを連動させることに重点を置きます。参加者は気持ちよく呼吸で

きる範囲で体を動かし、ご自身のペースでヨガを楽しんでいただいています。そしてMOMO先生による法話では、日常生活に役立つ仏教の考え方や仏教とヨガの共通点などを、毎回わかりやすくお話しくださり、参加者が仏教を身近に感じる機会となっています。また、8月と9月にはヨ



仏教ヨガ講座（ケン・ハラクマ氏）

ガを学びにインドへ渡った MOMO先生の代わりに、日本ヨガ界の第一人者であるケン・ハラクマ氏が当講座を担当し、会場・オンライン共に多くの方にご参加いただきました。



特別坐禅会 (ヨガ)



宇野全智氏による法話



坐禅体験



精進料理体験

「特別坐禅会」開催

於 曹洞宗大本山總持寺 2022年11月19日

ヨガと坐禅と精進料理を体験する
人気講座を3年ぶりに再開

平成28(2016)年からスタートした「特別坐禅会」は曹洞宗大本山總持寺を会場に、ヨガと坐禅と法話、精進料理を通じて、普段の生活ではなかなか触れることができない仏教に親しむ機会を提供してきました。

3年ぶり5回目の開催となった本会は、「仏教ヨガ講座」にも登場していただいたケン・ハラクマ氏にヨガ講師を、曹洞宗総合研究センターの宇野全智氏に法話を、瑞応殿で担当いただきました。進行役として行うヨガと法話、總持寺参

禅室室長の花和浩明氏による總持寺についての解説、衆寮(坐禅堂)での坐禅や五観の偈を唱えた後の精進料理(希望者のみ)など、参加された方には約半日かけてじっくりと仏教を体験していただきました。

10 Activity

「体感する仏教く目黒編く」開催 於「五百羅漢寺」・「目黒不動尊瀧泉寺」

2022年11月27日

「仏教の素晴らしさの一端 新型コロナウイルスの感染を体感する」をテーマとした 拡大の影響により開催できず特別講座を開催しました。 延期となっていました。平



五百羅漢寺（無垢品宗生氏による羅漢像の説明）

成31（2019）年に開催された浅草編以来、第3回目の開催となりました。

第1部の五百羅漢寺では、住職の無垢品宗生氏より羅漢堂内の羅漢像に関する説

明をいただき、本堂において無垢品氏による念仏行指導が行われました。第2部の目黒不動尊瀧泉寺では、住職の瀧口康道氏による護摩行を見学し、その後、瀧口氏より目黒

不動尊や目黒に関する歴史の説明をいただきました。

当日は天候にも恵まれ、終了後のアンケートには来年もぜひ参加したいという声が多く寄せられました。今回の「体感する仏教」は令和5（2023）年秋に開催予定です（詳細は当協会公式サイトにて最新情報をご確認ください）。

11 Activity

「願いの一字」コンテスト2023」開催

1年のほじまりに—

願いの一字コンテスト2023

募集期間
2022年11月20日(日)
～12月15日(木) 必着

発表会
2023年1月6日(金) 11時
東京・増上寺(本堂)にて
書家 鈴木猛利氏の揮毫

主催 公益財団法人仏教伝道協会 / 特別協力 大本山増上寺 / 後援 公益財団法人全日本仏教会

願いの一字コンテスト2023ロゴ



力強く揮毫する鈴木猛利氏

新たな年への願いを漢字一字に込めるコンテスト、「願いの一字コンテスト2023」を初めて開催しました。令和4（2022）年10月1日から12月15日の間、当協会公式サイトのお応募フォームにて公募。その結果「今年こそは会えなかった人に会いたい」との願いから「会」に決定しました。「会」には、「会得する（さとりを得る）」の意味もあり、多くの方が仏のみ教えに

令和4 (2022) 年度の主な活動



青木常務理事：左、鈴木猛利氏：右



BDK1階ロビーにて展示

出会えるような一字が選定されました。

令和5 (2023) 年1月6日に大本山増上寺大殿前で、東京タワーを背景に書家である鈴木猛利氏に「会」の字を揮毫いただき発表。全身を使った迫力のパフォーマンス

スには会場から拍手が起こりました。ご観覧の皆さまには鈴木猛利氏による手書きの「会」文字入り葉書をプレゼント。当日は17時まで増上寺境内に展示し、その後、仏教伝道センタービル1階ロビーで掲示しました。

12 Activity

「先学に聞く」公開

「先学に聞く」は、令和4 (2022) 年度から開始した新企画。仏教界を牽引されてきた「先学」の皆さまへのインタビュー企画です。

先生がたの経歴や、論文著作などの研究成果は広く知られている一方で、その人柄や仏教への思い、個人的なエピソードが語られることは多くありません。本企画では、ご自身が仏教徒として伝えたい思いや大切にしている言葉を、エピソードと共にご紹介いただき、その人となりに一歩踏み込んだお話を伺っています。2022年度は6名の先学の方がたにお話を伺い、3名のインタビュー動画(ダイジェスト)と、読み応えのある記事を当協会公式サイト上で公開することが出来ました。次年度も引き続き貴重なお話を、より多くの皆さまへお届けできるように努めてまいります。

現在第3回まで公開中 (敬称略/2023年3月現在)

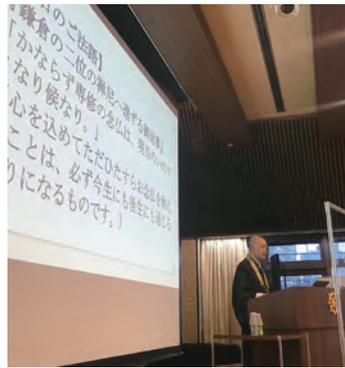
第1回	渡邊寶陽 (立正大学特別栄誉教授)
第2回	宮城泰年 (聖護院門跡門主)
第3回	荒牧典俊 (京都大学名誉教授)

上から 渡邊寶陽氏、宮城泰年氏、荒牧典俊氏





4月（小林恵俊氏）



6月（林田康順氏）



8月（若田尚登氏）

2022年度開催実績（敬称略）		
開催月	テーマ	講師
4月	天台宗・最澄	小林恵俊 (天台宗正明寺 法嗣)
5月	真言宗・空海	天野高雄 (高野山真言宗高蔵寺 住職)
6月	浄土宗・法然	林田康順 (大正大学 教授)
7月	浄土真宗・親鸞	井上見淳 (龍谷大学 准教授)
8月	時宗・一遍	岩田尚登 (時宗満福寺 住職)
9月	臨済宗・栄西	松本隆行 (臨済宗建長寺派能満寺 住職)
10月	曹洞宗・道元	千葉公慈 (東北福祉大学 学長)
11月	日蓮宗・日蓮	谷川寛敬 (日蓮宗真成寺 副住職)

定例講座では紹介できなかった「奈良仏教」について、末木文美士氏（東京大学名誉教授）を講師としてお招きし、会場およびオンライン配信で特別編を開催しました。また、学生の方々がたにも気軽に参加していただけるよう、学生割引の参加枠を設けました。

奈良仏教といえば平城京（南都）を中心に栄えた仏教各派を指しますが、「南都六宗」と整理された側面だけではないというお話でした。インドで仏教がはじまり、様々な考え方が中国を経由して日本に伝わり、奈良の地で仏教が国家と結びつき、奈良仏教の展開を下敷きとして仏教が1層日本に定着したことが理解できる講義となりました。

特別編 「奈良仏教を学ぶ」開催 2023年2月28日

日本仏教の基礎を学ぶ機会を提供するため、各宗派の教義や成り立ち、宗祖や中興の祖について学ぶ仏教初心者講座「一から学ぶ日

本「の仏教」を開催しました。令和4（2022）年度は、仏教伝道センタービル8階「和」の間を会場とし、来場とオンラインのハイブリッド形式で開催。オンラインでは首都圏外からも多くの受講をいただきました。

また、昨年度のラインナップに「時宗・一遍」が加わり、内容も、各宗派の中興の祖に触れていただくことで、学びが深まったという声が多く寄せられました。



特別編：講義の様子（末木氏）

Activity 13 「一から学ぶ日本の仏教」 年間開催報告

令和4(2022)年度 BDKシンポジウム開催

Symposium

各講演概要

第28回

テーマ：「生死を問う」

於 TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前 2022年7月13日

平成31(2019)年第53回「仏教伝道文化賞」受賞者の藤田徹文氏、令和3(2021)年第55回「仏教伝道文化賞」受賞者の小川一乗氏を講師にお迎えし、北海道札幌市(TKP札幌ビジネスセンター赤れんが前)にて、「生死を問う」をテーマにご講演いただきました。

藤田氏には「あなたは死後どこへ～今、ここを生きるあなたに」と題し、人生の方向、いのちの行先をわかりやすくお話いただき、小川氏には「仏教の根本にあるもの～ガン告知と仏教」と題し、実妹の鈴木章子氏の詩を引用して「死に向かって進んでいるのではなく、今をもらって生きている」との姿勢が大事であることを説いていただきました。

また一人でも多くの方にご参加いただきたいとの願いから、北海道手話派遣センターへ講演時の同時手話通訳を依頼し実施。当協会としては初めての試みでしたが、2名の通訳者による手話付きの講演が実現しました。北海道でのシンポジウム開催は2回目となりますが、当日は92名(会場32名、オンライン60名)に受講していただきました。



小川一乗氏(手話通訳者：右)



藤田徹文氏(手話通訳者：右)

第29回

テーマ：「人は人を救えるのか — 教誨師の活動から考える —」

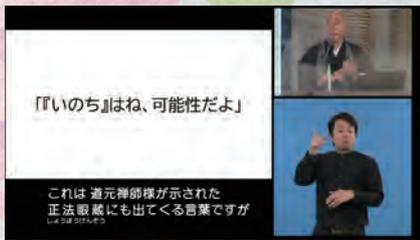
於 仏教伝道センタービル 2022年9月10日

昨今、受刑者の精神的救済を目的とする教誨活動の実態を取り上げた小説が映画化されるなど、多くのメディアで教誨師に注目が集まっています。教誨活動の第一線で活躍している谷澤正次氏(公益財団法人全国教誨師連盟事務長・元府中刑務所法務教官)、油谷弘幸氏(カトリック東京教区司祭)、久保井賢丈氏(曹洞宗大泉寺住職)の3名を迎え、第29回BDKシンポジウム「人は人を救えるのか — 教誨師の活動から考える —」を開催しました。

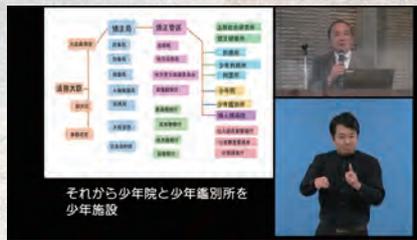
普段なかなか知ることのできない教誨活動の実態など、収容施設における教誨活動の現状についての説明からはじまり、カトリックおよび仏教の教誨師2名に、それぞれのお立場から教誨活動とはなにか、テーマである「人は人を救えるのか」についてご講演いただきました。また後半では、参

加者からの質問を基に講師3名によるクロストークを行いました。

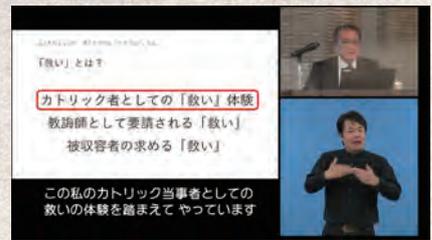
なお、こちらのシンポジウムの模様は聴覚障害をお持ちの方にもご覧いただけるよう手話表現、字幕付き動画を仏教伝道協会YouTubeチャンネルで配信しています。



動画：久保井賢丈氏（手話表現者：江副悟史氏）



動画：谷澤正次氏



動画：油谷弘幸氏

第30回

テーマ：「争わない生き方」

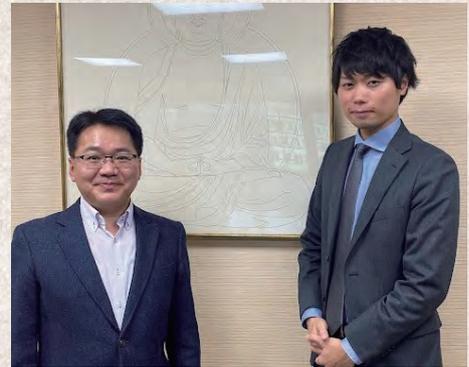
於 仏教伝道センタービル 2022年11月12日

災害や疫病、戦争が日常となった現代社会で「争わない」ために宗教が果たす役割を考えるシンポジウムを開催し、講師に、永井陽右氏（NPO法人アクセプト・インターナショナル代表理事）と小原克博氏（同志社大学神学部教授、良心学研究センター長）をお迎えしました。

永井氏からは「テロ・紛争解決における新たなアプローチ～対話ができないテロ組織に何ができるか?～」と題し、いわゆるテロ組織の投降兵や逮捕者の社会復帰支援に宗教再教育を取り入れるなかで感じた宗教の役割についてお話をいただきました。

小原氏の講演テーマは「争いを激化させないためにできること～一神教の歴史と現実から考える～」。争いの背景にある人間と現代社会の特性、一神教における争いの歴史、宗教リテラシー教育の必要性などのお話をいただきました。

クロストークでは異なるフィールドで活躍するおふたりの意見交換が活発に行われ、争いと宗教の関わりについて考える機会となりました。



小原克博氏：左、永井陽右氏：右

第31回

テーマ：「仏像の美 なぜ人は祈るのか」

於 仏教伝道センタービル 2023年3月4日

人々に祈りや救いを与える力を持つ仏像の美しさについて考えるシンポジウムを開催し、講師に、岡田靖氏（東京藝術大学 大学院美術研究科文化財保存学専攻 保存修復彫刻 准教授）、加藤巍山氏（仏師・彫刻家）、小島久典氏（東京藝術大学 大学院美術研究科文化財保存学専攻 保存修復彫刻 助教）、西山厚氏（奈良国立博物館名誉館員・東アジア仏教文化研究所代表）をお迎えしました。



講演の様子（加藤巍山氏）

岡田氏には宗教全般における偶像の意義、加藤氏には東日本大震災被災地への仏像奉納のお話から祈りと仏像の関係、小島氏には模刻製作から見えてくる仏像の美と仏師の思い、そして西山氏には祈りの蓄積としての仏像についてお話をいただきました。

「仏像の美」を構成する様々な要素について、各講師それぞれの視点からお話いただき、多角的に仏像について考える貴重な機会となりました。また、それぞれテーマが異なるお話でしたが、どのお話にも仏像の根底には仏師や祈りをささげる人びとの思いがあり、そこから美しい造形が生まれるという点では共通しており「仏像の美とは？」という問いに、シンポジウム全体を通してひとつの結論をご提示いただきました。



ちょっと、ひと休み

仏教伝道協会公式SNSリニューアル

活動内容を広く速やかに届けるため SNSによる情報発信方法の 見直しを行いました



興味・関心事についての情報を入手する手段として、多くの人が日常的に利用しているSNS(ソーシャルネットワークサービス)。仏教伝道協会では、これまでFacebook、Instagram、YouTube、Twitter【令和4(2022)年7月～】、TikTok【2022年10月～】を通じて、さまざまな発信を行ってきました。

FacebookとInstagramからは、主催する講座、イベントの告知や新商品情報を、YouTubeからは、「週刊法話ステーション」や各種講座、BDKシンポジウムの録画動画等を発信しています。さらに多くの人にアプローチするため、2022年8月から発足したプロジェクトチームのもとで各SNSアカウントを一貫して管理、特にInstagramは内容やスケジュールに一定のルールを設けて投稿内容を大きくリニューアルしました。画像デザインやタイミングなどを試行錯誤しながら、告知だけにとどまらない仏教にまつわるさまざまなコンテンツを発信しています。

また、長年継続していたメールマガジンや「かけはしカード」(ハガキ)による情報提供は2022年10月に終了し、LINEがその役割を引き継ぐことになりました。LINEからは、定期的な情報提供の他、講座開催直前の急なキャンセルによる空席情報のご案内など、従来よりもきめ細かい情報提供を行っています。

◎ぜひ仏教伝道協会が運営する各SNSアカウントのフォローをお願いします！



BDK
仏教ヨガ



英語で
BUKKYO



公益財団法人
仏教伝道協会

海外協力機関のご紹介

北米地区

米国仏教伝道協会
ハワイ仏教伝道協会
カナダ仏教伝道協会

中米地区

メキシコ仏教伝道協会
メキシコ恵光寺

南米地区

南米仏教伝道協会

欧州地区

ヨーロッパ仏教伝道協会
ドイツ恵光日本文化センター
英国仏教伝道協会
ポーランド仏教伝道協会

アジア地区

アジア仏教伝道協会
台湾仏教伝道協会

日本国外には、現在9カ国10カ所にそれぞれ独立した“仏教伝道協会（通称：BDK）”があり、日本の仏教伝道協会と相互に連携しながら、特に「仏教聖典」の頒布活動を通じて仏教精神、仏教文化を伝えています。



海外協力機関のご紹介



お問い合わせ一覧

●各国での「仏教聖典」頒布やその他活動の詳細に関するお問い合わせは、お近くの仏教伝道協会までお願いします。

北米地区

米国仏教伝道協会
BDK America

1675 School Street,
Moraga, CA 94556 U.S.A.
Tel: +1(925)388-0067 Fax: +1(925)388-0331
<http://www.bdkamerica.org> (対応言語: 日本語・英語)

ハワイ仏教伝道協会
BDK Hawaii

1757 Algaroba Street,
Honolulu, HI 96826, U.S.A.
Tel: +1(808)942-1511 Fax: +1(808)942-2622
E-mail: bdkshi@hotmail.com
<http://www.bdkhawaii.com> (対応言語: 英語)

カナダ仏教伝道協会
BDK Canada

c/o Mitutoyo Canada Inc.
2121 Meadowvale Blvd.
Mississauga, ON, CANADA L5N 5N1
Tel: +1(905)821-6202 Fax: +1(905)821-4968
E-mail: honjo@bdkcanada.com
<http://www.bdkcanada.com> (対応言語: 日本語・英語)

中南米地区

メキシコ仏教伝道協会／メキシコ恵光寺
BDK Mexico

Prologación Eugenia No. 17, Colonia Nápoles,
Alcaldía Benito Juárez, CDMX, C.P.03810, MEXICO
Tel: 52(55)5543-0507
Email: contacto@ekocccj.com
<http://ekocccj.com> (対応言語: 日本語・スペイン語・英語)

南米地区

南米仏教伝道協会
BDK South America

a/c Mitutoyo Sul Americana Ltda.
Avenida Mimes, 25 - Jardim Ermida I - Jundiá / São Paulo,
Brasil
Tel: +55(11)5643-0006 Fax: +55(11)5641-3745
E-mail: bdk@mitutoyo.com.br (対応言語: 日本語・ポルトガル語・英語)

欧州地区

ヨーロッパ仏教伝道協会／ドイツ恵光日本文化センター
BDK Europe/EKO-Haus der Japanischen Kultur e.V.

Brüggener Weg 6,
40547 Düsseldorf, GERMANY
Tel: +49(211)577918-0 Fax: +49(211)577918-219
E-mail: bdk@eko-haus.de
<http://www.eko-haus.de> (対応言語: 日本語・ドイツ語・英語)

英国仏教伝道協会
BDK U.K.

c/o Mitutoyo(UK)Ltd. Joule Road, West Point
Business Park, Andover, Hampshire SP10 3UX U.K.
Tel: +44 1264-353123 Fax: +44 1264-354883
E-mail: BDK.UK@mitutoyo.co.uk (対応言語: 英語)

ポーランド仏教伝道協会
BDK Poland

c/o Mitutoyo Polska Sp.z o.o.
ul. Graniczna 8A 54-610 Wrocław, POLAND
Tel: +48(71)354 83 50 Fax: +48(71)354 83 55
(対応言語: ポーランド語・英語)

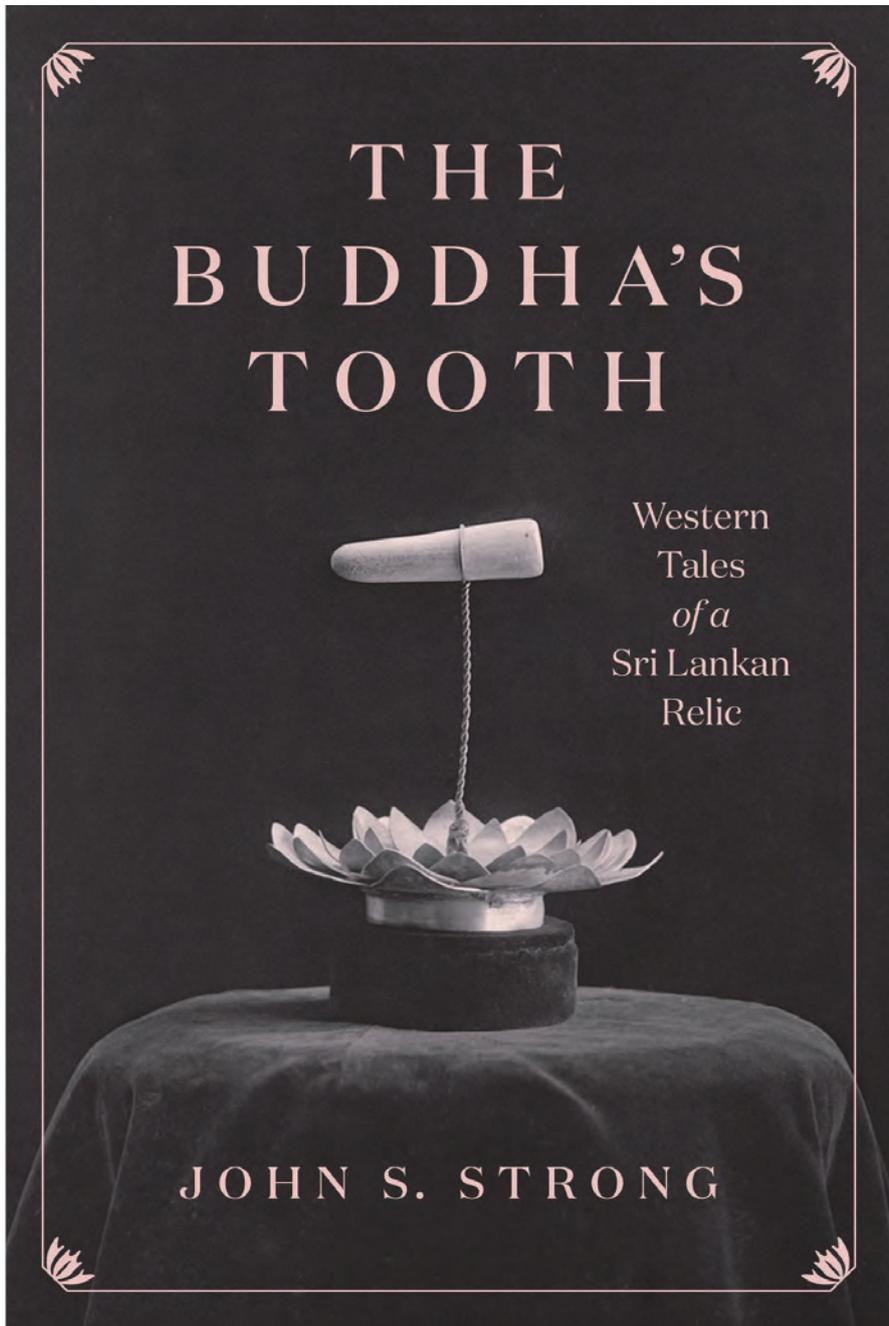
日本以外のアジア地区

アジア仏教伝道協会
BDK Asia

c/o Mitutoyo Asia Pacific Pte. Ltd.
24 Kallang Avenue, Mitutoyo Building,
Singapore, 339415, SINGAPORE
Tel: +65 6294-2211 Fax: +65 6299-6666
E-mail: bdk@mitutoyo.com.sg
<https://bdkasia.org> (対応言語: 日本語・英語・中国語)

台湾仏教伝道協会
BDK Taiwan

4F., No.71, Zhouzi St., Neihu Dist.,
Taipei City 114, TAIWAN
Tel: +886(2)5573-5913 Fax: +886(2)8752-3267
E-mail: bdktaiwan@yahoo.com
<https://www.bdk.tw> (対応言語: 日本語・英語・中国語)



**米国仏教伝道協会
BDKアメリカ**
(アメリカ・カリフォルニア州)

令和4(2022)年の

活動報告

新型コロナウイルスの感染拡大の勢いは少しずつ収まってきましたが、BDKアメリカでは引き続き

状況を注視しながら、月例会議の半分をオンラインで、もう半分を対面で、というような形で活動を継続してきました。2年間、書面で開催してきた理事会ですが、令和5(2023)年は対面での開催を予定しています(2023年3月現在)。

ホテルへの「仏教聖典」の寄贈活動も徐々に再開し、電話でコミュニ

ケーションを取りつつ、今後はホテル協会の地域会議などへの出席も検討しています。ホテルへの頒布数はコロナ禍で減少していましたが、アメリカ軍関係への寄贈活動は継続的に行い、これまで12,000部の軍隊版「仏教聖典」(迷彩柄の特別仕様)を頒布することができました。

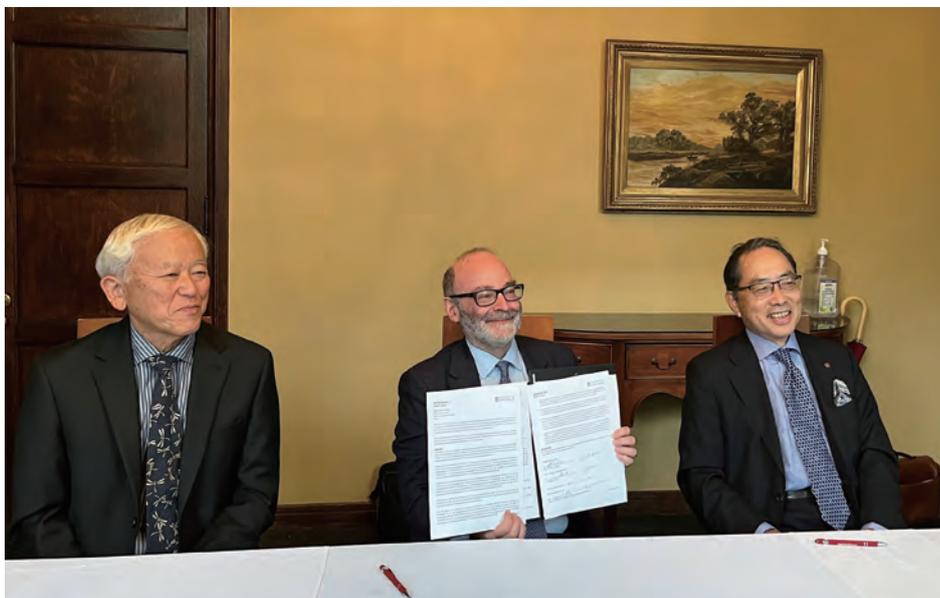
コロナ禍では「仏教聖典」以外

の書籍の頒布数が増加し、『さとの知恵を読む(英語版)』、『Jewels』、『ブッダのおしえ(英語版)』など約9,000部を頒布しました。気軽に手に取ることができ、刊行物の需要が高まっているため、今後「法句経」(仏典の一つで、仏教の教えを短い詩節の形で伝えた、韻文のみからなる経典)などの刊行も企画されています。

また「英訳大藏経」の翻訳、編集作業はコロナ禍でも大きな影響を受けることなく作業を進めることができ、14,000部を超える数を販売、寄贈、PDFのダウンロードなどを通じて頒布しています。令和4(2022)年は、3冊の新作を発表し、2023年には更に5冊の刊行を予定しています。

2022年「沼田智秀仏教書籍優秀賞」の受賞はJohn S. Strong氏(Bate College名誉教授)の著書『The Buddha's Tooth: Western Tales of a Sri Lankan Relic』に決定しました。授賞式およびシンポジウムは、2023年2月にUCバークレーにて開催しました。

また、引き続きアメリカ国内での「沼田仏教講座」への支援を行っています。UCバークレーでの活動推進のため「沼田仏教学センター」が2022年10月に完成。シカゴ大学では2023年の新たな講座開設に



シカゴ大学にて (BDKアメリカ)



ワシントン恵光寺 (BDKアメリカ)

向け、引き続き尽力しています。
BDKアメリカでは、大学などの教育機関での活動のみならず、お寺での活動にも力を入れ、引き続きワシントン恵光寺の支援も行っています。長年活動に貢献してくださったハヤシ・ナリアキ住職がデンバーの寺院へ異動となったため、ニューヨーク・シーブルック・ニュー

ジャージー地域などで活動してきたライ・カート氏が引き継ぐことになりました。ワシントン恵光寺は今後改装の予定もあり、最新鋭の音声・映像機器の導入、インターネット環境の整備なども予定していることから、今後世界の様ざまな場所や人とのつながりができていくと期待されます。

ハワイ仏教伝道協会 BDKハワイ (アメリカ・ハワイ州)



令和4(2022)年の活動報告

令和4(2022)年は、未だ新型コロナウイルスの感染拡大の影響

響が残り、ハワイ州内のホテルへの「仏教聖典」頒布活動はなかなか進めることができませんでした。ホテルの多くは客室内の備品を介する接触を避けるために、できるだけ室内に物を置かない方針となり、さらに難しい状況が続きました。『本』として置いていただけな状況だったため、代わりにQRコードを表示したカードを設置し、そちらのコードを読み込むことで、無料で「仏教聖典」をダウンロードしていただけるようにしました。ワイキキ市内のホテル36軒へカードのサンプルを送りましたが、実際に導入していただけたのはそのうち2軒のみでした。コロナの状況も落ち着いてきたため令和5(2023)年は再びホテルへ連絡をとり、本またはQRコードカードの導入を検討していただけるよう試みる予定です。

観光客は徐々に戻ってきているため、「仏教聖典」の需要も増加傾向にあります。中でも観光スポットとしても人気のハワイ・平等院テンブルのギフトショップでは、2022年だけで「仏教聖典」2,312部が販売されました。また引き続き刑務所への「仏教聖典」頒布を推進。528名の教誨師の方がたへサンプルをお送りし、計748部の注文をいただきました。

地域での会合は全てオンラインで行



「バーチャル討論」チラス (BDKハワイ)

われ、4月には「BDKヨシアキ・フジタニ異教徒間プログラム」はバーチャル討論を主催。ギリシヤ正教、イスラム教、仏教を代表する聖職者の方がたをお招きし、それぞれの宗教における礼拝所の持つ意味などについて説明いただきました。

BDKハワイでは長年Samarian Counseling Centerと浄土真宗本願寺派と共同で「自殺防止」の取り組みを推進するワークショップを共催してきました。2022年は「Embracing Hope 2022: Suicide Prevention During the Pandemic Years. (希望を抱く

令和4(2022)年のはじめは、BDKメキシコ内でも新型コロナウイルスの感染が広がるほどの状況でしたので、対面での活動は引き続きひかえ、翻訳・出版業務とオンラインでの活動に注力しました。子どもたちから絵を募集して『仏教説話アニメーション』を作成したり、メキシコ在住の被爆者の方のインタビュー動画を編集したり、恵光道場の先生がたの協力で恵光日本文化館のプロモーションビデオを製作したりと、オンラインコンテンツを充実させ、公式ウェブサイトをecocci.comも新設しました。

その後、6月頃には感染状況もほ

令和4(2022)年の活動報告

メキシコ仏教伝道協会 BDKメキシコ (メキン)

2022..パンデミック下での自殺防止の取り組み」と題してオンラインでのワークショップを実施しました。

10月には「ハワイ本と音楽の祭典」にてVanessa Sasson氏の小説『Yasodhara』についてのオンライン討論会を主催しました。Sasson教授もカナダ・モントリオールから



「さとりの知恵を読む」スペイン語版：左 (BDKメキシコ)

出席していただき、ブツダの妻であるYasodharaについて討論に参加、好評を博しました。2023年には浄土真宗本願寺派ハワイ別院(ホノルル)でも対面での講義を予定しており、BDKハワイでもSasson教授を迎え、次回の「ハワイ本と音楽の祭典」の一部としてハワイ大学にてイベントを主催する

ぼ取戻し、対面での活動を再開、メキシコ恵光寺の横尾副住職が、浄土真宗本願寺派教師の資格を取得しました。横尾氏は、日本で直接指導を受けることができたことに触れ、「仲間と切磋琢磨でき、大変ありがたい機会」であったことを振り返り、「教修中は何度も「僧侶は資格ではなく、自覚です」とご鞭撻いた



横尾氏から手渡された「仏教聖典」を胸に笑顔の少女

予定です。

最後に、BDKハワイが運営・管理するBDKアパートの建物の老朽化に伴い高額な改装費が予想されますが、貴重なハワイでの協会活動の資金源となっているため維持していきたいよう尽力します。

いただいたことに感謝しつつ、これに機にメキシコでの活動に、より一層励んでいきたい」と気持ちを新たにしました。

加えて6月には、職員として宮内氏を新たに迎えました。管理栄養士として長年人びとの健康のために活



「植本殖民125周年記念事業」式典 (BDKメキシコ)

動してきた宮内氏には、精進料理を中心とした活動に貢献してもらおう予定です。

アルバエジソン大学での仏教講座も再開し、10月には18カ国が参加する第25回「国際教育学会」が開催され、戸高住職が名誉博士として招聘されました。文化省委託事業である横尾副住職の紙芝居企画も再開し、2022年は約6,000部の「仏教聖典」を頒布することができました。

11月には南部に位置するチアパス州にて「植本殖民125周年記念事業」が実施されました。BDKメキシコでは、先人たちとチアパスの雄

大な自然に捧げる法要を執り行いました。当時の入殖者の多くはキリスト教に改宗したため、仏教は伝わっていませんが、現地の方がたは、日本の仏式法要に興味津々で、数多くの「仏教聖典」が手渡されました。日系4世が中心となって実施された記念事業でしたが、今だからこそ、日本のルーツを深く掘り下げ、両国の良いところを受け継いでいきたいという情熱が感じられる祭典でした。

令和5(2023)年も引き続き、新しい試みに挑戦しながら、職員一同メキシコでの活動に尽力してまいります。

台湾仏教伝道協会 BDK台湾

(台湾)



令和4(2022)年の

活動報告

世界各国で新型コロナウイルスの感染拡大が一段落し、日常生活が戻りつつあった令和4(2022)年

でしたが、台湾では新規感染者数が一日平均1万人を超える状況であり、多い日には2万人を超える日もありました。そのため「仏教聖典」頒布活動において厳しい状態に変わりはなく、活動の方向性を模索す

る日々が続いています。しかし、その中でも台湾では「里長」と呼ばれる、日本で言うところの町内会会長の皆さまを通じて、令和3(2021)年12月頃から各町内へのアプローチをはじめたところ、予想以上に反響が大きく、多くの方がたに喜んで受け取っていただくことができました。

その後、継続的に高雄市内の「新興区」、「楠梓区」など8区の各町内会の皆さまに「仏教聖典」(中国語繁体字版、B6サイズ)を約6,000部お届けすることができました。今後は高雄市以外にも台湾各県、市の町内のより多くの方が



楠梓区金田里 邱里長：左、BDK台湾傳氏：右（BDK台湾）

たに「仏教聖典」のことを知っていただけるよう、更に活動範囲を広げる準備をしています。令和5（2023）年1月には、これまでコロナ禍で一度も直接訪問することができなかった各町内会へ出向き、「仏教聖典」頒布にご協力くださった町内会長の皆さまと対面することができました。本誌を通して感謝の気持ちと喜びを分かち合いたいと思います。

上記のような出来事を広く皆さまに知っていただけるよう、BDK台湾の公式ウェブサイトに最新情報を掲載し、「仏教聖典」の紹介画像などもわかりやすく表示しました。更に英語版のページには本誌『BDK Newsletter 道』の英語版も無料で閲覧できるように追加し、より多くの方がたに協会活動を理解していただけるよう工夫しています。



METALEXでの「仏教聖典」配布（BDKアジア）

アジア仏教伝道協会 BDKアジア (シンガポール)



令和4（2022）年の 活動報告

アジア仏教伝道協会では、令和4（2022）年11月16日～19日にタ

イ・バンコク国際貿易展示センターで開催されたMETALEX2022にて、ミットヨ・タイを通じて同社のブースに来場された方を中心に「仏教聖典」計2,234部の配布を行いました。このMETALEXは東南アジア最大の機械見本市のひとつであり、来場者は10万人を超えます。通常毎年開催されていました



マハマクット大学卒業式（BDKアジア）

が、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により開催を延期していたため2年ぶりの開催となりました。ミットヨ・タイでは各展示会にてミットヨ製品および「仏教聖典」のコーナーを設け、配布活動を行っています。

令和元（2019）年、令和2（2020）年にマハマクット大学（タイ・ナコーンパトム市）の卒業式の開催にあわせ、同大学へ「仏教聖典」配布を行いました。令和3（2021）年度の卒業式はパндеミックの影響から延期され、令和4（2022）年度卒業式と合同で行われました。2022年12月16日〜17日にリハーサル・卒業式が実施され、出席した卒業生、関係者へ「仏教聖典」約3,000部を配布し

ました。ミットヨ・タイとしては今回が3度目の出展となりましたが、好評のため今後も同大学への頒布活動を継続していきたいと考えています。



卒業式での「仏教聖典」配布（BDKアジア）

ヨーロッパ仏教伝道協会 BDKヨーロッパ (ドイツ)

令和4（2022）年の 活動報告

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大以降、「恵光」日本文化センターの一般法要・講座・講演会等の多くの行事がオンラインでの開催となっていました。令和4（2022）年夏ごろから対面式を

組み合わせたハイブリッド形式での開催となり、より多くの方の参加が可能となりました。

BDKヨーロッパでは、ミュンヘン近郊のアイゼンブッフにある曹洞宗普門寺の中川正壽老師をお招きし「坐禅、私たちは人なのだから (Zazen, da wir Menschen sind)」というテーマにてハイブリッド形式の講演会、尺八の演奏会を主催しました。講演の翌日は、本堂にて中川老師ご指導による坐禅会も開催。主催行事としてはパнде



初参式 (BDKヨーロッパ)



除夜会 (BDKヨーロッパ)



中川老師講演 (BDKヨーロッパ)

ミック以降初の坐禅会ということもあり、対面での機会を待ち望んでくださっていた皆さまに多数参加いただくことができました。

また、令和元(2019)年の大晦日を最後として開催ができていなかった除夜会を、3年ぶりに開催することができました。今回は従来の夜間ではなく14時からの開催とし、35名という人数制限のもとで行いました。本堂にて除夜会の法要を行った後に、鐘楼へ移動し順番に除夜の鐘を撞いていただきました。

コロナ禍以降年々増加している「初参式」(子どもの誕生を祝う儀式)は、2022年は26件もの依頼があり過去最多となりました。パンデミックも終わりが見えてつづありますが、ロシア、ウクライナ情勢の不安定化と航空運賃の高騰により、日本への一時帰国が難しい状況が続く中で、帰国せずに恵光寺でお祝いするドイツ在住の日本人の方が増えたようです。令和2(2020)年以降の3年間で初参式の実施は66件となりました。

反省（はんせい）

自分の過去について誤りがないかどうかを考えることが反省ですが、私たちは本当に自分を反省できているかという点とあやしいものです。

私たちは常に自分を是とし、他人を非とする思いに胡座をかいていますから、夫婦げんかをしようが、親子げんかをしようが、友達と気まづくなるうが、「なぜ、あんなことになったのだろうか」と反省はしますが、結論はいつも同じです。「反省した、反省した」というので、「どう反省したのか」というと、「どう考えても相手が悪い」と反省するのです。

「自分のあの行動が間違っていた」、
「自分のあの言葉が悪かった」というのが本当の反省なのに、
私たちの場合は、常に相手が悪いという結論になります。
私たちの反省はいつもいい加減なものです。

自分の本当の姿を知るには、鏡の前に立つしかありません。
わが「いのち」の本当のあり方を見せてくださる鏡が教えます。
教える前に立って自分を知らされて、本当の反省です。

（仏教伝道協会 第二代会長 沼田智秀 『ささえあってー百八つのおもいー』より）